



CSR REPORT 2018



Innovation for the Earth



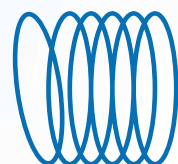
リマテックグループの環境への
取り組みが業界トップランナーと
して環境大臣に認定されました



資源循環で、低炭素社会へ。
気候変動キャンペーン「Fun
to Share」に賛同しています



水無し印刷を
採用しています



REMATEC
Innovation for the Earth

～ 変化 ～

人々の価値観・取り巻く環境など
時代の変化とともに様々な問題が生じています。

私たちは、そんな変化への対応を続ける中
設立以来、変わらずに受け継がれてきた思いで
次世代へバトンを繋ぐ企業を目指し
グループ全員、これからも取り組んでいきます。

Contents 2018

04 特集

- 04 特集1 リマテックグループのSDGsに関する活動をご紹介
リマテックグループのSDGs
- 06 特集2 リマテックグループの国内外の事業所をご紹介
リマテックグループ事業紹介
- 08 特集3 これまでのイノベーションの変遷をご紹介
リマテックグループの歴史
- 10 特集4 リマテックグループとCSRの関係についてご紹介
CSR×リマテックグループ

12 理念・報告

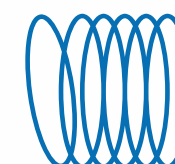
- 12 時代の先を読み新しいビジネスに取り組む続ける
トップメッセージ
- 14 理念とビジョン
- 16 CSR活動報告
- 17 安全衛生・環境活動報告

18 グループ企業紹介

- 18 リマテック株式会社
- 20 リマテック九州株式会社
- 22 リマテック東北株式会社
- 24 リマテックR&D株式会社
- 26 RTT株式会社
- 28 リマテックグループの海外事業

30 DATA・その他

- 30 RF事業における
環境パフォーマンスデータ
- 31 データ実績
- 32 環境・安全衛生活動報告データ
- 33 3か年目標
- 34 第三者意見
- 34 第三者意見を受けて
- 35 企業情報



リマテックグループのロゴ

当グループのロゴマークは、一つひとつのサークルが小さな循環を意味し、そのサークルが連鎖することによって資源循環型社会が構築されていくことを表しています。当グループの提供する資源循環サービスの一つひとつが資源循環型社会構築に貢献していきたいという想いが込められています。当グループは確かな技術とノウハウ、これまで培ってきた経験と実績をベースに、よりいっそう顧客価値創造に取り組み、ビジネスパートナーとして皆様の企業価値向上に貢献し、ステークホルダーの皆さまと持続可能な社会づくりに邁進する所存です。

リマテックグループのSDGs

リマテックグループは、持続可能な開発目標「SDGs」の達成に向け、目指す未来のビジョンに、一日でも早く近づけるよう、日々、国内外で活動を展開しています。
これからもグループスローガンである「Innovation for the Earth」を念頭に、全世界、全ての人が平等な幸福を感じる社会の実現に取り組み、活動の輪を広げてまいります。

12 つくも責任
つかう責任



受け入れた産業廃棄物を石炭の代替燃料に生まれ変わらせ、セメント工場に供給することで、CO₂削減などの環境負荷低減に貢献します。また、製造中の化学反応等のリスク及び、高品質の製品を安定生産するため、専門の検査部署を設け、徹底したリスク・品質管理を行っています。引き続き、生産過程におけるリスク・品質管理の徹底とCO₂削減に取り組み、限りある資源の循環利用によって持続可能な社会の実現に貢献していきます。



14 海の豊かさを
守ろう



海の豊かさを守るため、創業以来、海洋汚染撲滅の活動を続けてきました。写真は、1997年に発生したロシア船籍タンカー「ナホトカ号」の海上事故による重油等回収プロジェクトの様子です。また、海岸沿いの美化活動などのボランティア活動にも取り組んでいます。これからも培ってきたノウハウ・経験を活かし、漁業が続けられる豊かな海を守る運動に取り組んでいきます。



8 働きがいも
経済成長も



グループ内で働く全社員の働きがいと、環境持続型社会の構築に伴う経済成長を目指しています。理念に共感するグループの一人ひとりが、互いを受容し、学びあい、持続可能な社会とグループの成長を目指します。



13 気候変動に
具体的な対策を



2001年より次世代エネルギーであるバイオガスに注力し、食品廃棄物など有機性廃棄物の再資源化の研究開発に取り組んできました。これまでの研究成果をもとに、2015年バイオガス発電プラントを建設。再生可能エネルギー事業という新たな分野に挑戦しています。



4 質の高い教育を
みんなに



グループ全体のレベル向上を目標に、若手社員や役職者など、階層ごとに質の高い教育を行っています。今年行われた「リメンバー7・28」では、海外先進国の考え方や、今後のSDGsの取り組みについてグループ討議を行い、参加者全員が理解を深めることができました。



現在、大規模な太陽光発電を国内4か所（熊本県・鹿児島県2ヶ所・岡山県）に設置し、電力供給を行っています。2014年の設置以来、少しずつ規模を拡大し、2018年3月には鹿児島県日置市に新たに発電所を設置、稼働いたしました。脱炭素社会の実現に少しでも貢献できるよう、これからも定期的な管理・メンテナンスのもと、年間フル稼働を目標に供給を行なっています。

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



昨今、全国各地で相次ぐ自然災害で発生した災害廃棄物の処理及び復旧支援を行っています。2016年の熊本県を震源とする巨大地震においても災害廃棄物96万トンの処理を行い、2018年6月末で全ての廃棄物処理を完了いたしました。これからも、自然災害による被害から一日でも早く回復し、地域住民の方が安心して暮らせる生活環境を守る活動に、取り組んでまいります。

11 住み続けられる
まちづくりを



9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



技術革新による持続可能な循環社会の実現に向け、日夜、研究開発に取り組んでいます。開発された技術は特許取得後、実用化され、国内外の産業基盤として自然循環と私たちの生活を支えています。また、RF燃料を安心して使用して頂くため、日々、徹底した品質管理も行なっています。



15 陸の豊かさも
守ろう



豊かな森林と木のある暮らしを次世代に引き継ぐため、森林環境税を活用して取り組む「県民の生活を守り、地球環境保全につながる森林づくり」。リマテックグループではこの活動に賛同し、「ふれあい共生の森」と命名した森林の手入れに参加し、森林づくりを進めています。



17 パートナシップで
目標を達成しよう



全ての目標を達成するためには、パートナーシップがもっとも重要であると考えています。すべてのステークホルダーの皆様と共に、SDGsの目標達成に向け、「資源純化インフラを担う企業グループ」を目指し、事業に取り組んでまいります。



リマテックグループ 事業紹介

リマテックグループは、資源循環や地球温暖化対策といった環境分野における社会的課題の解決を主たる事業領域とし、グローバルに事業を展開しています。

国内事業8拠点



海外事業5拠点

Netherlands
RKE Renewables

事業内容
◎ユーロ圏における事業統括

United kingdom(UK)
RKER UK

事業内容
◎再生可能エネルギー事業

Thailand
REMATEC&KSN Thailand

事業内容
◎アセアン諸国における事業統括

Thailand
Green Conservation Solutions

事業内容
◎資源循環エネルギー事業

Malaysia
The Green Biomass

事業内容
◎資源循環エネルギー事業

国内事業

RF事業



様々な産業から排出される廃油、廃液、汚泥、ばいじんなどの廃棄物を、独自特許技術※1によってセメント工場の石炭補助燃料となるRF（Reclaiming Fuel / 廃棄物を利用した再生燃料）へ再資源化。燃焼ゼロ・排水ゼロ・埋立ゼロの地球に負荷をかけないリサイクル・システムを行っています。性状が異なる廃棄物を混練し、安定した品質の製品（RF）を製造することは非常に難しいですが、長年培った経験・技術によって、安定生産を実現しています。

※1:特許第3039644号
「可逆的チキソトロピー性を有するセメント焼成用補助燃料組成物」

環境修復事業



近年、地球温暖化などの異常気象に伴う大規模な地震・洪水等の災害が各地で発生しています。リマテックグループは、そのような災害で発生した大量の災害廃棄物を早期撤去し、一日でも早い生活環境の回復に向け、復旧・復興支援事業に取り組んでいます。

災害廃棄物の処理工程については、運搬・分析・高精度選別・再資源化まで一貫した処理スキームを構築しています。

これまでに携わった環境修復事業については、P8「リマテックグループの歴史」のページをご参照下さい。

ネットワーク・物流事業



収集運搬から処分まで産業廃棄物のトータルコーディネートを実現し、日本各地の収集運搬ネットワークを幅広く網羅することで、ネットワーク物流事業を展開しています。様々な用途の車両を取り揃え、収集運搬から再資源化、有価物化等を担う「ワンストップサービス」を提供。お客様の各種ニーズに幅広く、柔軟に対応しております。また、運送上の事故・トラブル「0」及び環境負荷低減を念頭に、同乗指導やデジタルタコグラフによる徹底管理を日々行っています。

バイオマス発電事業



有機性廃棄物から微生物の反応により生成したバイオガスを使い、バイオマス発電事業を行っています。この事業のメリットには、新たなCO₂を排出しないことや、含水率の高

い有機物からでも効率的にエネルギーを生成できること、そして処理後の残渣は液体肥料として利用できることなどがあります。エネルギーの地域分散だけでなく、触媒として地域内の連携を生み出し、地産地消と地方創生に貢献します。

メンテナンス事業



各種設備メンテナンス等の実績で培ったノウハウを活かし、お客様の希望に沿ったメンテナンス方法と安全対策を提案・施工しています。また、大型タンク内清掃や各種設備清掃時に発生する洗浄水等の廃棄物について、その時々

- ・ケミカルタンク清掃
- ・原油・粗軽油・タール・重油タンク清掃
- ・超高压洗浄工事
- ・海上災害復旧工事・廃棄物コンサル業
- ・アスベスト除去工事
- ・配管ビグ洗浄工事
- ・化学プラントの触媒抜取・充填工事
- ・超微粉体物の抜取工事 など

太陽光発電事業



脱炭素社会の実現及び、再生可能エネルギー 100%を目指し、国内4か所（熊本県・鹿児島県2ヶ所・岡山県）に大規模な太陽光発電パネルを設置。定期的な管理・メンテナンスのもと電力供給を行っています。

この太陽光発電により、火力発電所から排出されるCO₂と化石燃料使用量の削減につながります。

※発電量及びCO₂削減量については、P11「CSR×リマテックグループ」のページをご参照下さい。

リマテックグループの歴史

1970年代高度経済成長期に伴う海洋汚染を契機に、
様々な環境問題に正面から向き合い、改善に取り組んできたリマテックグループ。
試行錯誤しながらも「変化」へ対応してきた私たちの歩みを、一部ご紹介します。

※PJ：PROJECTの略称
※RF (Reclaiming Fuel)：セメント焼成用補助燃料製造

1974

近畿環境興産株式会社設立

海洋汚染の主要原因である廃油・廃液を処理するべく
「近畿環境興産株式会社（のちのリマテック株式会
社）」を設立

1992

関西空港-PJ

関西国際空港建設に伴い空港島内で発生する
建設廃棄物の処理マネジメント

1993

台湾RF-PJ

中華民国・高雄へ廃棄物処理再生技術
(RF燃料製造)を技術移転

1995

震災廃棄物処理-PJ

芦屋市、西宮市、宝塚市等の震災廃棄物マネジメント

1996

韓国-PJ

韓国蔚山広域市において、大手石油精製工場の
RFプラント建設、技術移転、および運転支援を実施

1997

ナホトカ号-PJ

ロシア船籍タンカー（ナホトカ号）が破断し、日本海沖に
漂流・漂着した事故において、重油の回収・処理・処分を
実施
日本海を覆った排出重油等の総回収量は、海水・ゴミ・油
泥砂などを含め、約59,000トンにも及び、船舶輸送含め、
全国7件10箇所にて対応
原状回復と再資源化等処理・処分を実現

2000

廃棄乳再資源化-PJ

食中毒事件に伴う廃棄乳処理のマネジメント

2001

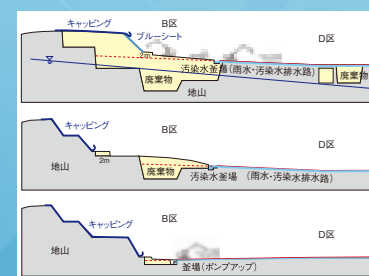
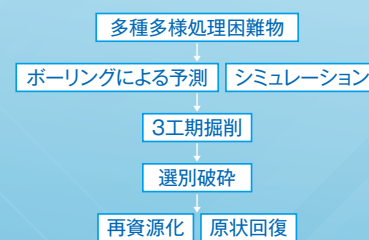
橋本-PJ

橋本市ダイオキシン汚染現場の不法投棄廃棄物処理
マネジメント

2002

岩手青森県境-PJ

岩手・青森県境不法投棄事案
原状回復事業における施工管理業務／
選別プラント・水処理プラント設計建設
算出されたマトリックス・シミュレーションにて投棄・埋没
された廃棄物の種類を予測し、選別フロー・選別処理基
本システムを設計
作業におけるリスク及び、周辺へのリスクの最小化を図
りながらの原状回復を約11年かけて終了



2006

北九州PCB-PJ

PCB汚染土壌処理施設運転管理業務

2007

BOFs大船渡-PJ

大船渡工場BOFs(Biomass and Oilyslugde Fuel)
製造設備の設計、建設、運転支援

洲本-PJ

亜臨界水処理によるメタン発酵エネルギー活用
プロジェクト

2008

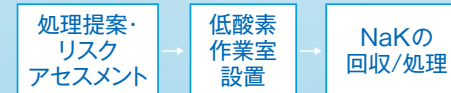
3S(トライエス)-PJ

家電メーカー堺新工場でのオンサイト廃棄物自家処理・
再資源化システムの提案

2009

NaK-PJ

原子炉の冷却剤利用として研究されていたNaK®の廃
棄が課題となっており、処理方法を提案
安全対策・防災訓練をもとに、模擬作業演習を実施
低酸素作業室を自作し、オンサイト設置、NaKの安全な
回収を実現



※NaK＝金属ナトリウムカリウム合金。空気や水分に
ふれると爆発的に反応・炎上する取扱い困難物質

2010

リマテック株式会社に 社名変更

岐阜不法投棄原状回復-PJ

不法投棄産業廃棄物を処理するにあたり、不法投棄廃
棄物が発熱していることが判明
燃焼箇所を消火する注水消火の補助工法を提案し採
用され原状回復を実施

亜臨界プラント-PJ

亜臨界パイロットプラント 建設・運転支援

2011

東日本大震災復興-PJ (岩手県)

海水をかぶったがれき（災害廃棄物）を処理するため
の除塩プラント、仮置場災害廃棄物を選別する二次選
別プラント、津波堆積物を処理する分級プラントの設
計・施工・支援を行う
また、除塩事業による災害廃棄物処理（約93.5万t）、
二次選別作業における災害廃棄物処理（大船渡市約
84万t、陸前高田市約119万t）を実施

滋賀県大津市-PJ

ドラム缶約450本に及ぶ不法投棄の支障除去業務
及び再生燃料化・焼却などの処理を実施

タイ王国

廃棄物の実態調査・廃棄物組成分析・湿式分級装置を用
いたRDF(Refuse Derived Fuel:廃棄物固形燃料)実
証試験開始

2013

「REMATEC&KSN Thailand」 海外現地法人設立

タイ王国における廃棄物リサイクル事業の企画推進をは
じめ、アジアでの未利用資源の活用事業開発、及びそれ
ら事業への投資を主な業務としたREMATEC&KSN
Thailand (RKT) 海外現地法人を設立

2014

持株会社制に移行 「リマテックグループ」へ

二次電池材料開発-PJ

廃棄物由来の低コストな二次電池用原料の
製造技術開発事業

太陽光発電事業開始

これまでに培った発電実績データや効率性・安定的な
発電に関する知見を十分に活用した
太陽光発電事業を開始

広島災害復興-PJ

広島県広島市で発生した、豪雨土砂流による
災害廃棄物の適正処理を実施

2015

Green Conservation Solutions(GCS)を設立

RKTとサイアムセメントグループとの合弁会社GCS
が、現地の堆肥化工場から発生する埋立残渣のリサイク
ル施設を竣工

バイオガス発電プラント「MFパワー1号」 運転開始

大阪府では初めてとなる固定価格買取制度(FIT)適用
のバイオガス発電施設として、発電事業をスタート

2016

熊本地震災害復興-PJ

熊本県で発生した地震による災害廃棄物980,000tの
適正処理を実施

2017

大分県津久見市豪雨災害-PJ

大分県津久見市を襲った台風18号の影響で河川の氾濫
発生した大量の汚泥・がれき等（14,300t）の災害廃棄物の
適正処理を実施

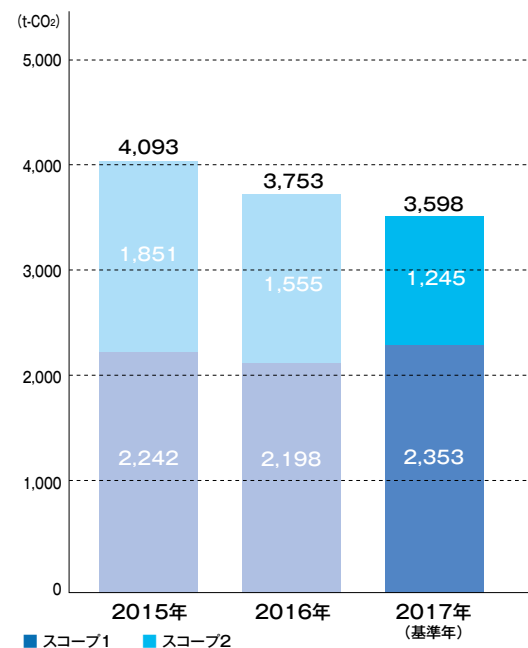
CSR×リマテックグループ

事業活動から排出されるCO₂排出量(スコープ1,2)

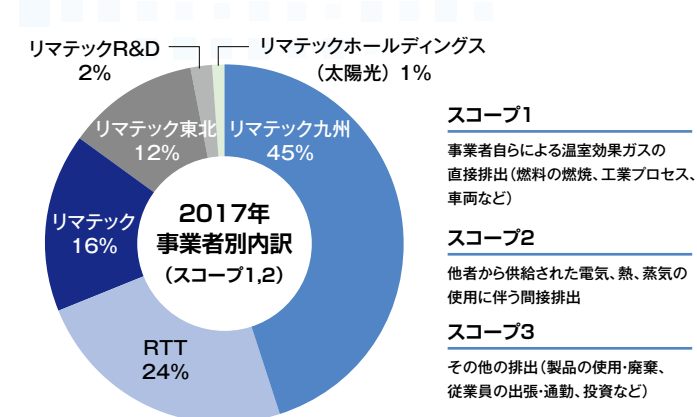
対象／リマテックホールディングス株式会社、リマテック株式会社
リマテック九州株式会社、リマテック東北株式会社、リマテックR&D株式会社
RTT株式会社

世界で最も広く利用されている GHG（温室効果ガス）算定基準である「GHG プロトコル※」に準拠して、スコープ1,2の数値を算定いたしました。スコープ3については、2018年度はカテゴリ1を算定中であり、今後、算定対象を大きく広げていく予定です。この結果を基に、各社ごとに温室効果ガスの削減に努めています。

■事業活動におけるCO₂排出量(スコープ1,2)の推移



■2017年事業者別内訳(スコープ1,2)



※米国の環境NGO「世界資源研究所 (WRI)」と国際的企業200社からなる「持続可能な発展のための世界経済人会議」が中心となり、1998年、GHG (温室効果ガス) 排出量算定と報告の基準を開発するための会議「GHGプロトコルイニシアティブ」が発足。2001年に「GHGプロトコル」第1版が発行されて以来、GHG 算定基準の世界標準となっています。

SBT水準の目標設定

気候変動による影響が世界で深刻化する中、企業には地球温暖化対策として、温室効果ガスの排出削減が求められています。当グループは、環境省による「中小企業版 2℃ 目標・RE100 の設定支援」という補助支援を受け、SBT※の目標水準に整合した目標を設定しました。国際イニシアティブ認定は受けていませんが、スコープ1,2における2030年温室効果ガス排出量の2017年(基準年)比20%削減を目指します。支援を受けて算出した2017年度の正確な数値を基準年と考え、これまで以上に、徹底した省エネ活動、再生可能エネルギー活用の推進など、温室効果ガス排出削減や気候変動緩和に向けた活動に積極的に取り組んでいます。



■SBTのイメージ

2050年に49~72%削減を目標として、2025年~30年の目標を設定するもの。



※SBT (Science Based Targets) イニシアティブとは、2015年に、国連グローバル・コンパクト、CDP、WRI (世界資源研究所)、WWF (世界自然保護基金) の4団体が、産業革命前からの気温上昇を2℃未満に抑えるための科学的根拠に基づいた温室効果ガスの排出削減目標を推進するために設立されたイニシアティブです。日本においては、環境省がSBTを「企業版2℃目標」と和訳し、企業での取り組みを推進しています。

RF出荷量

◎対象／リマテック株式会社、リマテック九州株式会社



2017年度は、設備トラブル等から目標を達成することができませんでした。今後、万全の体制から日常の管理を徹底し、製造ラインを停止させず、より高品質な製品を1tでも多く提供できるよう、グループ全体で取り組んでいきます。

RF1tあたりの電力消費量

◎対象／リマテック株式会社、リマテック九州株式会社



RF生産時の電力使用量の削減に向け、日々の管理では製造時の製品タンク攪拌機の間欠運転やデマンド監視の実施、設備改善では脱臭設備稼働時の電力量を調査し最適稼働に調整するなど、継続的に取り組んできましたが、目標を達成することができませんでした。事業における節電対策を検討し、省エネ設備への取替えや節電に対する社内啓発などにより電力削減意識を高め、次年度は目標達成に向け1kWhでも多く、電力削減できるよう努めています。

太陽光発電量&CO₂削減量(太陽光発電)

◎対象／熊本発電所、鹿児島発電所、岡山発電所、鹿児島第二発電所



定期的な監視(ストリング監視システム)やメンテナンスの結果、年間を通して、大きなトラブルもなく順調に稼働したことや、鹿児島県日置市に新たに発電所を設置(2018年3月)したことにより、2014年の設置以来、過去最高の供給量となりました。これは、スギの木約241本分のCO₂吸収量に相当します。引き続き、定期的な監視・メンテナンスから、より多くの電力量を供給し、低炭素社会の形成に貢献します。

※日本エネルギー経済研究所 計量分析ユニット編 2017年度参照

※環境省HPlんきゅうさん参照(樹齢50年のスギ1本あたりのCO₂吸収量:約14kg/年)

※太陽光発電のCO₂削減量については、太陽光発電協会「表示ガイドライン(平成29年度)」を参考に算出

リサイクル率

◎対象／リマテック株式会社、リマテック九州株式会社



リサイクル率に関しても、トラブル対応の影響を受け、エコ・ファーストで掲げるグループ目標97%を達成することができませんでした。次年度はグループ一丸となってエコ・ファーストの目標をクリアし、100%に近いリサイクル率の達成を目指します。

収集運搬車両の燃費

◎対象／リマテック九州株式会社、RTT株式会社



収集運搬時車両の燃費向上に向け、デジタルタコグラフによる管理・指導や、管理者による同乗指導の他に、外部の交通安全研修(3日間)において省燃費走行について学ぶなど、目標達成に向けた活動を進めてきましたが、達成することができませんでした。原因としては、まだまだ省燃費に対する意識が全体に浸透していなかったためであると考えています。次年度は、燃費向上に向け、教育や日々の指導等を通して、社員全員の意識共有を図り、燃費改善に向け取り組んでいきます。

有給休暇取得率

◎対象／リマテック株式会社、リマテック九州株式会社
リマテック東北株式会社、リマテックR&D株式会社
RTT株式会社



有効期限が消滅した年次有給休暇を、私傷病や介護に利用できる繰越年次有給休暇制度を設けるなど、福利厚生向上に努め、ワークライフバランスの実現に向けて様々な支援制度を提供しています。

(2017年度日本における年次有給休暇の取得率49.4%、厚生労働省平成29年就労条件総合調査結果より)



時代の先を読み 新しいビジネスに取り組み続ける

リマテックホールディングス株式会社
代表取締役

田中 靖訓

IPCC は 2018 年 10 月 8 日に「Global Warming of 1.5℃」と題した約 1,000 ページにも及ぶ特別レポートを公表し、2030 年から 2052 年までの間に世界の平均気温は産業革命前より 1.5℃ 上昇すると予測し、早ければ今から十数年後には現在よりも深刻な気候変動が顕在化する可能性を指摘しています。

2018 年の日本の夏は豪雨、台風、猛暑といった自然災害が本当に多く発生した年でしたが、これは日本に限ったことではなく世界的なものであり、まさに IPCC 特別レポートが警告する地球規模での気候変動が加速していることを感じざるを得ませんでした。

近年、パリ協定や SDGs など、社会課題に対する国際的な動きが加速し、企業は事業を通じて、持続的な社会の構築に貢献することが求められています。日本においても、世界の動きに連動し SDGs の達成に貢献していくとする企業への ESG 投資が高まるなどしており、多くの企業が SDGs の理念に沿った取り組みを始めています。

気候変動に対し「私たちに残された時間はあと十数年しかない状況の中で、今自分たちは何ができるのか?」と考えた時、パリ協定、SDGs、サーキュラーエコノミーといった世界的なマクロの動きをミクロな活動、すなわち自分たちの事業活動に具体的につなげて「一歩踏み出すこと」が重要であると考え、様々な取り組みを実施しています。

まずは、グループ内で働く社員に、SDGs や SBT とは何か、なぜ事業活動の中に取り組むことが重要なのか、それがなぜ会社の発展や持続的な社会の構築につながるかを理解してもらうことが一番大切であると考えました。そこで、年 2 回開催しているリメンバーデー（グループ全社安全衛生会議）の中で、SDGs についての研修を行いました。研修では、SDGs についての説明だけでなく、グループディスカッションやゲームを行うなど、社員自らが世界の状況や変化を考えながら、自分たちで優先課題や課題解決のための目標を決定し、具体的に活動に取り組んでいくことの重要性を本質的に学んでいく形で行いました。研修などを通して、少しずつではありますが、社内に浸透し始めていると実感しています。

温室効果ガス削減に向けてのアクションとしては、環境省の支援を受けながら SBT（企業版 2℃ 目標）の設定に取り組み始めました。2018 年は自らの事業活動に伴う温室効果ガス排出量の把握を行い、「2030 年までに 2017 年比 20%」の削減目標を設定しました。SBT の認証は受けていませんが、SBT の目標水準に整合する形で、2030 年に向けてグループ会社ごとに具体的かつ実現可能な施策を立て、継続的な活動として温室効果ガス削減に取り組んでまいります。さらに今後は、サプライチェーン全体での温室効果ガス排出量を把握し、環境負荷を低減する企業グループとして、ビジネスパートナーや顧客にも協力を働きかけるなどしながら、サプライチェーン全体での環



境負荷低減に貢献していきたいと考えています。

当グループでは、「資源循環インフラを担う企業グループへ」を中長期事業のビジョンとして、資源循環や地球温暖化対策といった環境分野での社会的課題の解決に貢献するため事業に取り組んでおり、その本業である資源循環ビジネスにおいても、新たな取り組みを始めています。リマテック R & D では、廃棄物に含まれるレアメタルを効率よく回収し蓄電池材料を製造するプロセスの開発に取り組んでおり、実現すると再生可能エネルギーの普及と資源効率の向上に大きく貢献できるものと考えています。また、リマテック東北では、食品製造工程の副産物から、化粧品原料、医薬部外品、香料等を生産する事業の立ち上げに取り組んでいます。このように、従来は廃棄物として取り扱われていたものから新たな価値を創造する取り組みは、従来型の大量生産大量消費型社会に即した効率重視の廃棄物処理・リサイクルビジネスに変わり、将来の社会変化に対応できる新たな資源循環インフラの一部として貢献できるものと期待しています。

もう一つの本業である再生可能エネルギービジネスにおいては、新たに 2MW の太陽光発電所を鹿児島に建設し、運営を開始しました。これにより、現在当グループでは日本国内で合計 6.5MW の太陽光発電所を保有することとなりました。さらに海外事業でも、マレーシアでパームオイル産業からの未利用バ

イオマスを利用したバイオマスペレットの生産を開始。イギリス、オランダでは有機性廃棄物のバイオガス化事業の開発に取り組んでおり、2019 年中にはバイオガスの生産を開始する予定となっています。今後も再生可能エネルギー事業の開発を継続し、再生可能エネルギーの普及と温室効果ガス削減に貢献していきたいと考えています。

2℃ 目標の達成に向けて世界は激しく変化しており、今後はまさに産業革命以来の大産業革命とも言える大転換時代を迎えることとなります。社会インフラはエネルギーを中心に大きく変化し、私たちのライフスタイルは私たちが想像できないほどにこの先変化していくものと考えられます。誰もが経験したことのない、まさに「見たことのない世界」へ転換していかようとしている中で、私たちはこれまで廃棄物・リサイクル分野で培ってきた経験を活かし、変わっていく時代の先を読み、新しいビジネスにも取り組む一歩が踏み出せるかどうか、重要になってくると考えています。

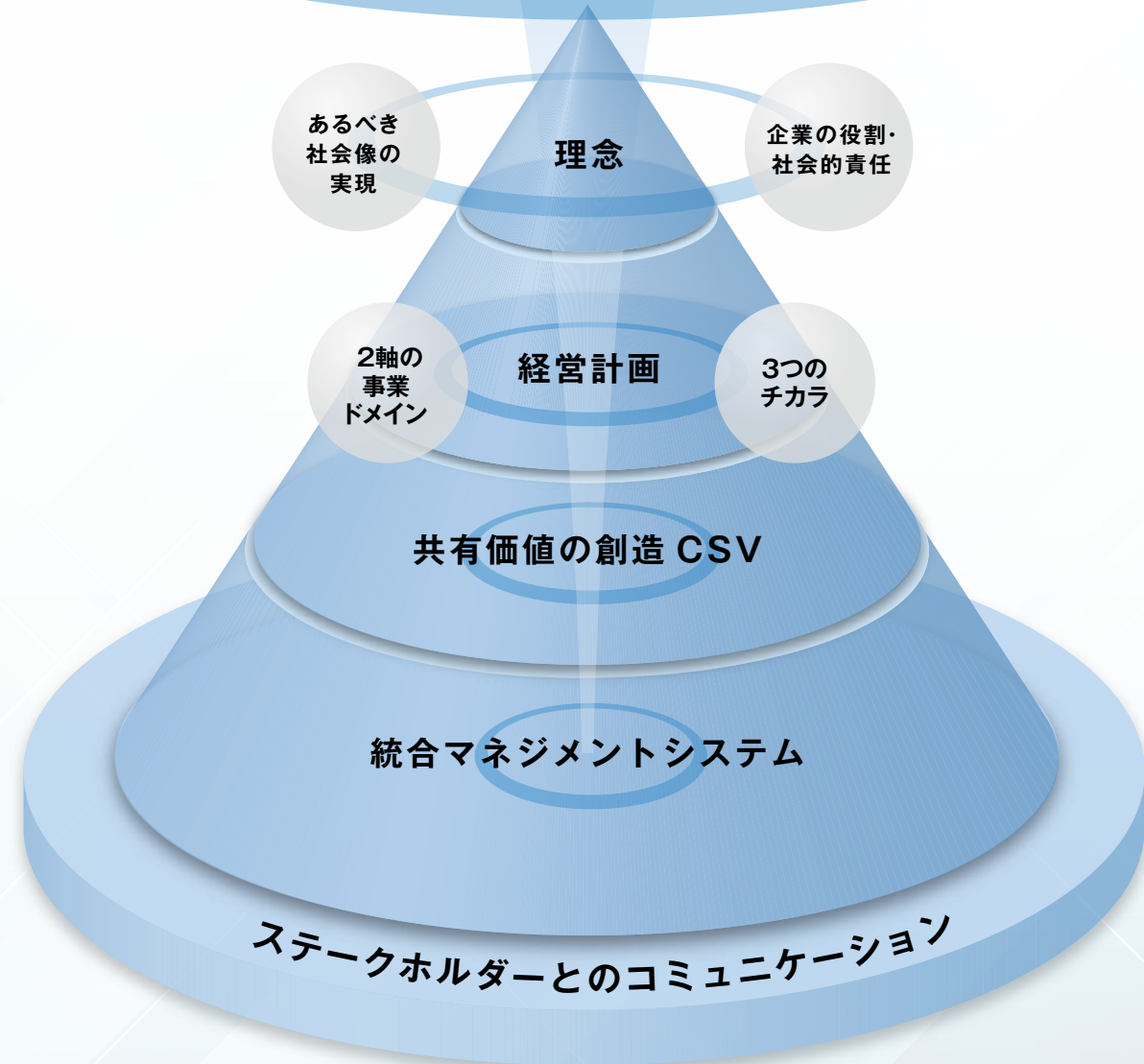
当グループでは来るべき大転換時代のリスクとチャンスを事前に評価し、それらへの準備を一歩一歩進めながら「見たことのない世界」を作ることに挑戦していく所存です。ステークホルダーの皆様の変わらぬご理解、ご支援をお願い申し上げます。

リマテックグループの目指す姿を明確にするため経営理念・経営ビジョンを定めています。理念・ビジョンとして企業の価値を広め、イノベーションを創出し、より良い社会環境づくりに貢献することが、リマテックグループの最大の役割（ミッション）であり、責任であると考えています。コーポレートスローガンを“ Innovation for the Earth ”と定め、事業活動とCSR活動を一体のものとして推進することを目指しています。

Innovation for the Earth

グループ経営理念

技術（**Technology**）をコアに、地球資源である物質（**Material**）を無駄なく効率よく循環（**Recycling**）させることによって、持続可能な社会の構築に貢献できるグループを目指す。



理念とビジョン

企業理念をもとに、資源循環社会を中心とした環境ビジネスを生業とし、資源循環や地球温暖化対策といった環境分野での社会的課題の解決を主たる事業領域としています。2010年度より「環境分野における社会的課題に対応するイノベーションの創出」を新生リマテックグループのミッションとして、“ Innovation for the Earth ”をコーポレートスローガンに掲げました。

安全衛生理念

リマテックグループは、事業活動等を通じて社会への貢献を図るとともに、社員の安全衛生の確保は企業の存立の基盤をなすものであり社会的責任であることを自覚する。よって人間尊重の理念のもと、「安全第一」、「快適な職場環境」を安全衛生活動の基本理念とする。

環境理念

リマテックグループは、地球環境の保全が人間の存続可能な発展のために不可欠な重要課題であることを自覚する。よって、環境負荷低減、省エネルギー、省資源に努め、環境との調和を図りながら、事業活動等を実践し、持続可能な社会の構築に貢献することを環境の基本理念とする。

コンプライアンスポリシー

企業活動において、ステークホルダーとの関係は極めて重要かつ尊重するべきものであり、法令遵守は社会的責務であると認識しております。法令や定款・社内規程はもとより、社会規範を遵守することを実現するためにコンプライアンスポリシーを制定し、役員および従業員の意識向上とコンプライアンス体制の整備を図ってまいります。



あるべき社会増の実現

- ◎ すべての人が安全に安心して暮らせる社会
- ◎ 「環境」と「経済」が共存した持続可能な社会
- ◎ 自然の摂理にかなった循環社会

企業の役割・社会的責任

- ◎ 価値創造
- ◎ 組織が社会に与える影響に責任をもつ
- ◎ 社会的課題の解決に貢献する

「地域の課題解決」を支え、未来を創造する2軸の事業ドメイン

国や地域によって背景も原因も多種多様な環境問題。その課題解決として、リマテックグループでは「資源リサイクル事業」「再生可能エネルギー事業」の2つを事業の軸として、地域の将来を見据え、課題に柔軟に取り組んでいます。



グループならではの「3つのチカラ」を結集し事業を推進

長年のノウハウと経験による「企画力」「技術力」「現場力」を結集させ、地域に根ざし、地域の声を聞き、そして地域の力を借りながら、それぞれが抱える課題の解決に貢献していきます。



リマテックグループは、国内外の様々な地域に各拠点を置き、それぞれの事業所が地域に根ざした活動を展開しています。これからも幅広いステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを大切に、より良い信頼関係を構築し、各拠点から共生の輪が広がっていくよう、グループの総力をあげて取り組んでいきます。

第17回 リマテック杯ふれあいグラウンドゴルフ大会

2017年4月、大分県臼杵市野津町でグラウンドゴルフ大会を開催いたしました。天候に恵まれ、総勢224名にのぼる参加者が集まりました。



大会後の表彰式の様子

国道花壇の花植え

2017年6月、地区の方々と国道沿いの花植えボランティア活動を行いました。この活動により、道路や歩道を利用する人が気持ちよく通行できる空間となりました。



花植え後の記念撮影

関西SDGs貢献ビジネスネットワーク キックオフ会合

2017年12月発足した「関西SDGsプラットフォーム」の分科会第一弾として、ビジネスの視点からSDGs推進を目指す「関西SDGs貢献ビジネスネットワーク」のキックオフ会合（約300人）が2018年3月22日に開催されました。会合では、「SDGs時代の新たな協働と付加価値創造 オープンイノベーションとネットワークの活用」のパネルディスカッションが行われ、リマテックホールディングス（株）代表取締役社長の田中靖訓がパネリストとして参加しました。



キックオフ会合の様子



パネリストとしてリマテックホールディングス（株）田中社長が参加

エコ・ファースト サステナブルカフェ2017 in 関西



2017年12月、積水ハウス株式会社 本社会議室にて、環境活動を行う青年間のネットワーク団体「NPO 法人エコ・リーグ」と「エコ・ファースト推進協議会」の共催で、「エコ・ファースト サステナブルカフェ2017 in 関西」が開催されました。



グループディスカッションの様子

岸和田市主催 第25回 港湾美化啓発活動

2018年6月、岸和田市および岸和田港振興協会主催の港湾美化啓発活動（浜工業公園～阪南1区岸壁まで）に参加しました。



美化活動後の集合写真

リマテックグループは、安全第一・快適な職場環境を基本理念とし、従業員が安全・安心・快適に働ける職場環境の形成から無事故・無災害の達成を目指しています。同時に、環境との調和を図りながら、持続可能な社会の構築に貢献し、環境負荷「0」の実現に向け、国内外の各拠点で日々、事業活動を行っています。

2018年度 リメンバー7・28研修会

グループの各社代表30名が参加の下、「リメンバー7・28」が開催されました。今回の研修会は、各社の安全衛生活動の情報共有や最先端の環境経営を学びました。環境経営学のテーマは「SDGs」であり、海外の先進国の考え方等について、リマテックホールディングス（株）田中社長より講演が行われました。その後は班に分かれ、今後各社が取り組んで行くSDGsの方向性についてグループ討議を行いました。一日の研修会を通して、日々の安全衛生活動を向上させるヒントや、今後のESG経営に関するビジョンや知識を得ることができ、グループ全体の底上げにつながる貴重な場となりました。



研修会の様子



グループ討議の様子

RMT合同緊急時対応訓練

リマテック（株）・リマテック R&D（株）が2回目となる合同緊急対応訓練を実施いたしました。訓練後にあがった修正点を改善し、万全の体制で日々の活動に取り組んでいきます。



訓練後の検討会



漏洩訓練時の様子

大分県津久見市豪雨災害-PJ

2017年9月17日に大分県津久見市を襲った台風18号は、10時間余りで降水量約430ミリという記録的な豪雨となりました。河川の氾濫等により発生した大量の汚泥・がれき14,300tを資源化処理する支援を行いました。



がれき等の分別作業

無災害記録の表彰状

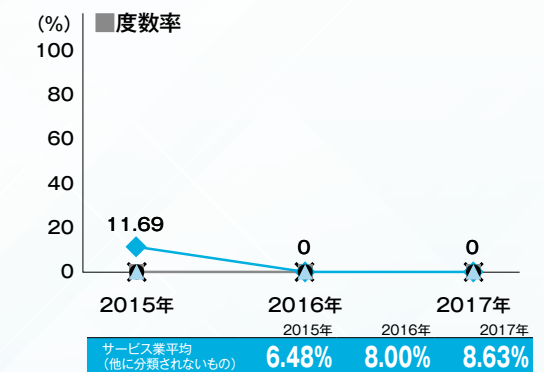
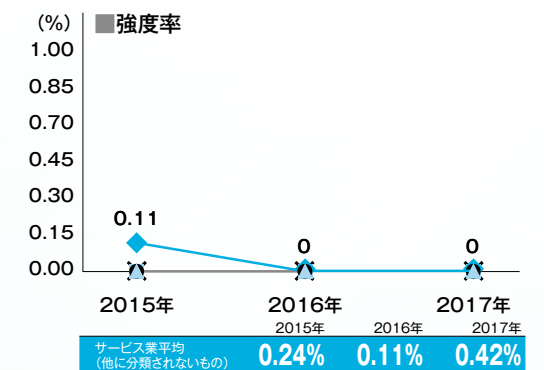
関係取引先構内での安全作業に対し、無災害表彰を頂きました。今後も安全最優先をモットーに無災害記録の更新を目指してまいります。



強度率&度数率

※製造従事者 集計期間／各年1～12月

対象／リマテック株式会社、リマテック九州株式会社、リマテック東北株式会社、リマテックR&D株式会社、RTT株式会社



◆リマテック ■リマテック九州 ▲リマテック東北 ●リマテックR&D ×RTT

出典:厚生労働省の労働災害動向調査より
※強度率/延労働時間当たりの労働損失日数をもって、災害の重さの程度を表す。
※度数率/延労働時間当たりの労働災害による死者数をもって、労働災害の頻度を表す。



リマテック株式会社

- 産業廃棄物処理事業
- 再生燃料(RF)製造事業
- バイオガス発電事業
- 環境修復事業

リサイクル・再資源化技術を追究し、 持続可能な社会と夢のある未来を切り拓く

トップメッセージ



代表取締役社長

簗 哲之

当社では二つの「地球規模の変化」に対応すべく企業改革を進めています。

一つ目は気候変動への対応です。我国では、地球温暖化の影響による風水害によって甚大な被害がもたらされるようになってきました。これに対応するため、当社ではBCP(事業継続計画)を定めて自社被害を最小化するとともに、必要に応じて被災地域支援・復興を迅速に実施できる体制構築を進めています。

二つ目は社会変化への対応です。2016年にはパリ協定が発効され、温室効果ガス削減などの地球環境保全に向けた世界的な動きが加速しています。当社の主力製品であるRF燃料は公害防止や省エネルギーに対応した製品であり、石炭代替燃料としてCO₂削減など環境負荷低減にも貢献できます。こうした価値をさらに創り出して、環境分野における社会的課題の解決に努めてまいります。

我々は今後も環境や社会の変化に対応し続けることで、「夢のある未来を切り拓く」企業でありたいと考えています。



品質管理体制の強化

PCB(ポリ塩化ビフェニル)廃棄物は、定められた期間内に処理する必要があり、PCBを保有する事業者によって適正に保管・処分が行われています。しかし、PCB廃棄物であることが確認されないまま非意図的に廃油等に混入する恐れがあります。

当社では、様々な廃棄物が搬入されますので、PCBの混入・流出を防ぎ、RF燃料を安心して使用して頂くために、2017年12月にPCB分析装置を導入し、品質管理体制を強化しました。

分析装置導入にあたり正確かつ迅速に測定できる方法を検討した結果、「絶縁油中の微量PCBに関する簡易測定法マニュアル(第3版)」で定められた生化学的な方法であるフロー式イムノセンサー法を採用しました。



PCB分析

新入社員の声

普段の何気ない生活の中で、廃棄物が大量に不法投棄されているニュース映像を見て、その中で少しでも環境活動に貢献できる会社で働きたいと思い就職活動をしていました。偶然にも地元で環境に携わる会社があると知り入社を希望しました。

就職して約半年が過ぎ、入社前と後ではギャップも感じています。毎日の仕事は覚えることや学ぶことも多く大変ですが、自分が分別したモノがリサイクルされ有効活用されていると思うと頑張れます。

今後は先輩のノウハウを自分も身に付けられるように頑張っていきます。



製造部製造グループ
山本 兼吾
2018年4月入社

2018 TOPICS

環境改善活動

RF燃料製造に際し、前処理として使用していた汚泥槽が、経年劣化による攪拌機ベースやステージ腐食で踏抜きの危険性もあったため、全面改修に至りました。改修にあたっては安全面や環境面の課題を製造部で幾度も話し合い、意見を集約しながら、2018年5月に完成いたしました。

これからも現場の知恵と創意工夫で、安全対策・環境負荷低減に努めてまいります。

■改善内容

1. 安全対策
 - (1) 耐久性のある素材に変更(鉄製からステンレス製へ)
 - (2) 転落防止対策(開口部格子幅を縮小)
2. 環境対策(臭気拡散防止)
 - (1) シャッター開閉を感知する赤外線センサーと自動開閉バルブの設置による臭気吸引の自動化
 - 1) シャッター1.8m以上開放時⇒汚泥槽内の臭気を直接吸引
 - 2) シャッター閉鎖時⇒工場内の臭気を吸引
 - (2) ミスト噴霧の自動化

シャッター1.8m以上開放時⇒自動的に汚泥槽開口部からミストが噴霧。噴霧されたミストの層が壁となり、槽内吸引ダクトに風の流れることができることで臭気の拡散が縮小化される
 - (3) 汚泥槽開閉蓋の変更

汚泥槽開閉蓋を2分割から3分割へ変更し、軽量化。作業状況に応じた開閉が容易となり、解放時間や開口面積を最小限にすることで臭気の拡散が縮小化される



汚泥槽



ミスト噴霧



災害復旧

災害復旧は、2016年4月に発生した熊本地震による災害廃棄物98万トンの処理を2018年6月末日で完了しました。

震災廃棄物は、5箇所の仮置場で受入れ、分別・破碎等の中間処理を実施しました。

この業務に当社より、震災廃棄物処理業務の経験者5名が株式会社鴻池組に出向し、熊本の復興事業に貢献しました。今回の鴻池組連合体(5社)に対し、熊本市より感謝状を頂きました。



仮置場(処理開始初期)



仮置場(処理完了)



感謝状

ステークホルダーの声

当社とリマテック社様との取引は、当社の赤穂工場でスラリー油をトラックで受入れたことからスタートし、2011年には、赤穂工場に大型のタンクを設置し海上輸送による受入れを開始しました。海上からの受入れは当社として初の試みでしたが、その後、高知工場にも展開し、当社の熱エネルギー代替率のアップにつながっております。

リマテック社様と当社の取引は、今のところスラリー油中心ですが、リサイクルや再生利用による廃棄物の削減に協力しながら対処していくことで、SDGsのターゲットの一つにもつながっていくと思います。

また、経営理念に持続可能な社会の構築への貢献を謳ったリマテック社様は、広島県の豪雨災害等での積極的な災害廃棄物処理にも取り組まれています。当社も豊かな社会の維持発展への貢献を企業理念に掲げており、東日本大震災、熊本地震、常総市の水害などで災害廃棄物を受入れました。これからも、社会の維持に貢献する協力関係を築いていければと思っています。



住友大阪セメント株式会社
執行役員 環境事業部長
小野 昭彦 氏



リマテック九州株式会社

- 産業廃棄物処理業
- 再生燃料(RF)製造事業
- 産業廃棄物収集運搬業
- 環境修復事業
- 設備メンテナンス事業

考動し進化を続ける未来志向の会社を構築しよう!

リマテック九州は「資源リサイクル事業」を基軸とし、排出事業者様より処理を依頼された産業廃棄物を原料として、当社独自の中間処理技術により、セメント会社向けの再生燃料(RF: Reclaiming Fuel)を生産・運送・販売しています。生産工程で起こりうる化学反応リスクを最大限低減させるため、危険物製造所の認可や、専門分析部門による成分分析など、ハード面・ソフト面で、高度の安全設備・技術を備えています。これからも、地域との共存共栄の精神のもと、「事故・災害ゼロ職場」「環境負荷ゼロ企業」を目指し、全てのステークホルダーの皆様に安心・信頼される企業になれるよう取り組んでまいります。

トップメッセージ



代表取締役社長
矢野 真一郎

感謝、誠実、進化

当社の基本コンセプトは「感謝、誠実、進化」をキーワードとしており、全てのステークホルダーの皆様の期待に応えるべく、全社一丸となって日々の業務に取り組んでいます。そうした中、2018年の5月に、同年3月に制定されたISO45001-2018版を業界他社に先駆け認証取得し、既取得のISO14001-2015版との統合システムを構築いたしました。これにより、コンプライアンス遵守と合わせ、ESG経営への足掛かりを築くことができました。

今日、我々を取り巻く地球環境は、世界的規模でダイナミックに変化しており、当社の基盤事業である「資源リサイクル事業」はもとより、「再生可能エネルギー事業」「SDGs活動」「RE100活動」等が今後の我々の事業ターゲットとなっています。これらは全人類が抱える共通の最重要テーマであり、当社としても、微力ではありますが、地球環境の改善に向け、中長期的なターゲットを含めた諸施策の策定と実践に向け、積極的な事業展開を図るとともに、さらなる地域貢献を目指してまいります。

タンクヤード大屋根とミスト噴霧装置の設置

熱中症対策として、廃棄物の荷卸しと再生燃料 RF の積み込み場に大屋根を設置しました。この大屋根の軒下からはミストの噴霧も可能で、日光の遮断とミストの気化熱により、周囲よりマイナス3℃の冷却効果を発揮しています。また、作業時の雨を回避する雨養生としても効果がありました。さらに、車両からの転落・滑落対策として、セーフティーブロック装置を設置し、転落災害防止にもつながりました。

高所作業車導入

工場内の高所作業である配管点検や、タンクのレベル計センサー清掃作業時における安全確保と業務の効率化に向け、高所作業車(移動式昇降足場)を導入しました。これにより、工場メンテナンス時の高所からの落下リスクと足場組立の手間を大幅に低減することができました。今後、高所作業における管理・監督をしっかり行い、無事故・無災害の達成に向け取り組んでいきます。



2018 TOPICS

労働安全衛生マネジメントシステムの国際規格認証「ISO45001-2018版」の取得

2018年3月19日に発行された労働安全衛生マネジメントシステムの国際規格認証「ISO45001-2018版」取得に向け、大手認証機関である日本検査キューエイ株式会社による審査を受けた結果、国内の産業廃棄物処理事業の業界内において、初となる認証を取得(2018年5月31日付)いたしました。

今後は、ISO45001の要求事項を主軸に社員全員一丸となって「安全第一」「快適な職場環境」の更なる充実に努めていきます。



認定証授与式後の記念撮影

「第4回都松地区ふるさと祭り」への参加



模擬店の様子



焼肉会場の様子

8月11日、地元地区の都松地区振興協議会主催による「都松地区第4回ふるさと祭り」が開催されました。当社は協賛企業として多くの社員(延べ49名)が会場設営・焼肉の模擬店出店・後片付けに参加し、祭りを盛り上げました。恒例となった当社提供の焼肉会場には344名の方々に来て頂き、今年も大盛況で終えることができました。

今後も地域の方々に感謝し、地域との共存共栄に努めてまいります。



草刈りボランティア(ふれあい共生の森)

2017年8月、社員15名で、企業の社会貢献活動の一環として取り組んでいる森林づくりの活動を行いました。この森は、大分県が開いている「企業参画の森づくり」の活動に対して、2008年10月に森づくり協定を結び、1000㎡の敷地の中に広葉樹990本の苗木を植樹しています。

当社は、この森を「ふれあい共生の森」と名付け、毎年夏に、伸びきった雑草の下刈りを社員ボランティアにて行っています。

今年は、早朝より約1時間かけてエンジン式刈払機や鎌を使い、参加者全員で雑草の生い茂った森林を綺麗にすることができました。植樹して間もない頃は、苗木も小さく見つけることが大変でしたが、約9年経ち、大きく成長した木々の姿を見ることができました。わずかな本数ではありますが、今年もCO₂削減に少しでも寄与してくれることと思います。



草刈後の集合写真



共生の森

新入社員の声



生産部製造課製造係
宮崎 伸也
2018年4月入社



平成30年度全日本社会人卓球選手権大会県予選(写真 右下)

リマテック九州に入社して、半年が経過しました。入社当初は学ぶことがたくさんあり、とても不安でしたが、わからないことに対し先輩方が理解できるまで教えてくれるので、今は安心して作業を行うことができています。これからも安全第一を心掛け、一つひとつ作業を習得し、仕事を任せて頂けるよう努めていきます。また、幼少の頃に始め、今でも全国大会上位入賞を目標に続けている卓球を通して、会社や地区の活性化に少しでも貢献できたらと思います。

ステークホルダーの声

今年度の都松区長会長ならび振興協議会副会長に就任し、地域の活性化に少しでもお役に立てばと取り組んでいます。現在、地域振興の目玉として力を入れているのが、エゴマ、黒にんにく、甘茶の栽培です。なかでもエゴマ油と黒にんにくは、臼杵市ふるさと納税の返礼品の指定を受け、大好評で品不足の状態が続いています。そうした中、リマテック九州様には地域貢献の一つとして、今年で4回目を迎えた都松地区ふるさと祭りに毎年協賛を頂き大変感謝をいたしております。おかげで今年も多数の地区住民参加のもと盛大にお祭りを開催することができました。また、御社では今年ISO45001を大分県で1番に取得したとお聞きしました。是非、コンプライアンスをしっかりと遵守し環境先進企業を目指し、地域との共存共栄に向けたより良い関係が末永く続きますよう祈念申し上げます。最後に、リマテック九州様が今後益々発展されますよう心から願っております。



都松地区 区長会長
徳丸 俊一 氏



復興が進む大船渡市



リマテック東北株式会社

- 資源循環に関する請負業務
- 資源循環コーディネート業務
- 未利用資源を活用した製品製造業務

ステークホルダーとの協創による新たな事業・価値の創出に向けて

リマテック東北は、岩手県大船渡市を拠点に、太平洋セメント株式会社大船渡工場内での再資源化請負業務を柱に、様々な廃棄物に対する資源循環のご提案等の取り組みを行っています。また、2018年8月より、花巻市の企業化支援センター内に花巻ラボを開設いたしました。昨年度より取り組みを開始しました資源効率の向上、自然エネルギーの活用を目指した新たな価値づくりを、地域のステークホルダーの皆様と共に進めてまいります。

トップメッセージ



代表取締役
野村 朋員

リマテック東北ではセメント工場での再資源化に関する請負事業のほか、東北の地で事業をするために、新規事業の取組みも並行して行っておりまいた。再生可能エネルギーの事業化については、引き続き模索中ではございますが、グループが目指す資源循環インフラを担う企業となるために、新しい挑戦を始めることにいたしました。詳細はトピックスでも紹介しておりますが、これまで価値を見いだせずに活用されていなかったものを原料とし、ものづくりを行ってまいります。

また、これらの事業活動を通して、新しい価値創出を目指すとともに、資源効率の向上、自らの事業における環境負荷低減にも積極的に取り組んでまいります。請負事業においては、業務内容が変化する中でいかに化石燃料使用量を削減できるか、新規事業に関しては、事業規模を拡張していくとともに、自然エネルギーの活用も含めて、先を見越した検討を進めております。

引き続き事業を通して社会に貢献でき、皆様が必要とされる企業となるために、日々努めてまいります。

社員の声

私は、製造業務に携わりはや7年になります。現在使用している破砕機、選別機は老朽化が進み処理量の低下や経年劣化での破損が多く日々安定稼働を目標に材質の改善、破損部の修繕、定期メンテナンスを行っています。また、管理者として会社方針でもある「安全で快適な職場づくり」を意識しながら製造部員の災害ゼロの継続、ステークホルダーでもある太平洋セメント大船渡工場への貢献、地域の皆様からも評価、信頼していただける会社作りを念頭に今後も日々努力してまいります。



製造部製造課製造係
出羽 宏尚

2018 TOPICS

マネジメントシステムについて

昨年度より取り組んでおりました、環境及び労働安全衛生マネジメントシステムは、リマテックグループでの認証から外れ、太平洋セメント株式会社大船渡工場のマネジメントシステムに沿った運営を実施することいたしました。今後は、新拠点の進捗に応じて、認証取得を再検討いたします。

新たな価値創出へ向けた事業化への取り組み

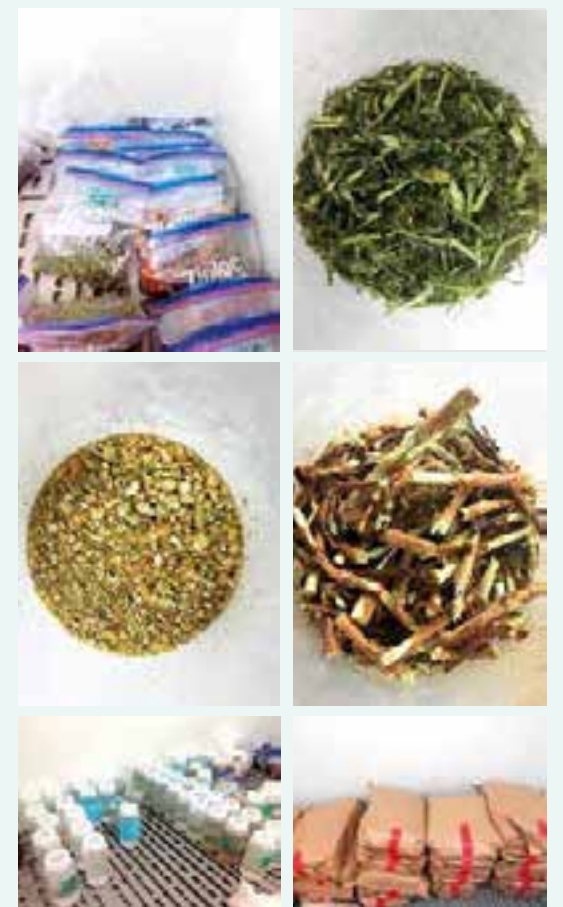
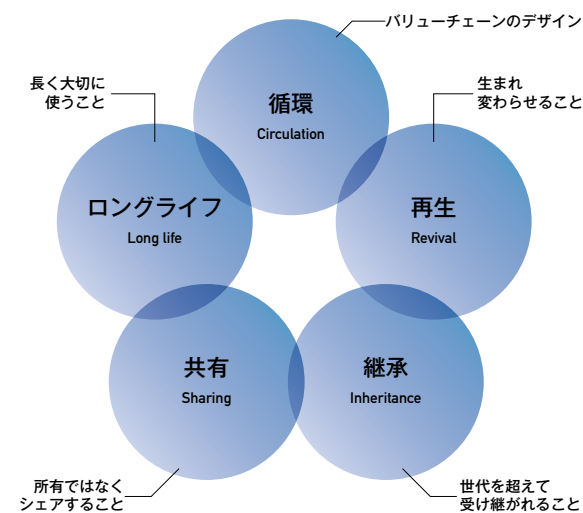
昨年より取り組みを開始した HiKEY プロジェクト（詳細は <http://www.hikey.jp/>）ですが、いよいよ事業化に向けた取り組みを開始しました。

「使い捨てない価値」の創出を目指し、事業として成立させるために、経済を回すことにもこだわりを持ち、事業を進めてまいります。

具体的には、これまでに価値を見いだせていなかった「モノ」、今回は一次産業に関連するもの、また二次産業における食品製造工程からの副産物を対象に、高い価値を見いだそうとしています。

もう1点のこだわりとしては、これらを廃棄物処理として行わないこと。全て原料として仕入れ、それを基にモノづくりを行います。

私たちが考える使い捨てない価値とは



花巻ラボ開設のご案内

2018年8月1日より、花巻市の企業化支援センターの施設をお借りし、新規事業拠点として花巻ラボを開設いたしました。

リマテック東北株式会社 花巻ラボ

【所在地】〒025-0312 岩手県花巻市二枚橋第5地割6番地3 B-7

【事業内容】

- ・飼料製造販売業
特定の単一原料のみを使用し、単体飼料を製造
- ・化粧品、医薬部外品、アロマ製造販売業
天然素材からの原料抽出、用途開発を実施





リマテックR&D株式会社

- 新規事業・技術の開発
- コンサルティング業務

パートナーシップによるイノベーションの創出

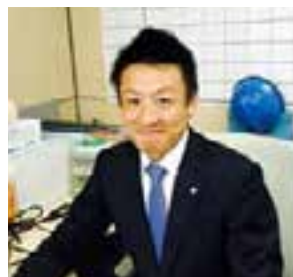
リマテック R&D は、循環型社会の実現・形成に向けた取り組みのために、次世代環境事業・技術の創出による様々な環境課題の解決に取り組んでいます。

さらなる多様化・複雑化をみせる環境課題を解決するイノベーションの創出を実現するべく、リマテックグループがこれまで培ってきた技術・ノウハウと外部の知見や技術をマッチさせるオープンイノベーションにも積極的に取り組んでいます。

グループ企業をはじめ、パートナーとの協働で、ESG ※の視点を持ちながら資源循環インフラの構築に取り組むことが、リマテックグループのミッションを果たすと信じてチャレンジしてまいります。

※ESG:環境 (Environment)、社会 (Social)、ガバナンス (Governance) の頭文字をとったもの。

トップメッセージ



代表取締役社長

伊藤 大輔

地球温暖化への取り組みとして、脱炭素社会の実現に向けた温室効果ガス削減に寄与する資源循環システムが求められています。特に、2015 年 12 月に採択されたパリ協定以降の資源循環・環境制約に対応する取り組みを加速させることは不可欠であり、まさに、『資源循環インフラの一部を担う』当社グループに課せられたミッションの一つだと考えています。

そこで、当社では、国際的に認められた「GHG プロトコル」ガイドラインに従い、グループ全体のサプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量、いわゆる「スコープ3」の算定に取り組んでいます。グループ各社にその結果をフィードバックし、現状を正しく認識してもらうことで、サプライチェーン全体での環境負荷低減に向けた取り組みを促してまいります。

当社並びにリマテックグループが社会に必要とされ続けるために、技術的根拠をベースとした新鮮で自由な発想を大切に環境課題に向き合い、解決に向けたチャレンジを継続してまいります。

温室効果ガス削減に向けての取り組み

当グループでは、2014 年度より太陽光発電事業を行っており、事業開始以来、発電量実績はグループ全体の事業活動における電力消費量を大きく上回っています。当グループでは、2018 年 3 月に鹿児島県の日置市で新たに発電を開始し、現在、4 つの発電所（鹿児島県 2 箇所、熊本県、岡山県）で発電事業を実施しています。発電所全体で年間 4,284t-CO₂ / 年の温室効果ガスを削減できると推定しております。

当社では、4 つの発電所で発電される日々の発電量を把握するなどの管理業務を行い、グループ全体が温室効果ガス削減へどのように取り組み、実施していくかを調査・検討しております。

今年度、当社が中心となり、2018 年度環境省の補助支援を受けて、グループ全体の排出量を把握し、「スコープ1,2」の算定や「SBT の目標水準に整合した目標」の設定を行いました。現在、サプライチェーン全体で温室効果ガス削減に取り組んでいくために「スコープ3」の算定を行っているところです。

今後、グループ企業をはじめ、サプライチェーンにも温室効果ガス削減に向けての取り組みの重要性や考え方を浸透させ、持続可能な社会に貢献できる企業として取り組んでまいります。



2018 TOPICS

バイオガス発電事業用新規凝集剤の開発

リマテックグループでは、食品廃棄物などを原料とした嫌気性発酵によるバイオガス発電事業を行っています。本事業には、発酵後に副生する消化液※1を固形分と液成分に分離する工程（固液分離）があります。この消化液を分離しやすくするために、分離前に凝集剤※2を使用しています。従来、この凝集剤としてポリ鉄と高分子凝集剤を併用してきましたが、消化液の性状により、ポリ鉄の使用量が増え、固液分離後の汚泥（固形分）が多量に発生していました。さらに、分離後の脱離液（液成分）の pH が酸性化しやすくなり、脱離液の処理工程で pH 調整を行う必要があるなど、製造原価も高くなることが課題でした。

そのため当社では、本事業専用の凝集剤を独自に開発。実証試験による検証の結果、薬剤コストや汚泥処理コストなどの製造原価を大幅に低減できる効果が得られることを確認しました。

※1 消化液:バイオガスを取り出した後に残る液体(発酵残渣)

※2 凝集剤:液中に分散する微粒子を凝集させるために使用される薬剤

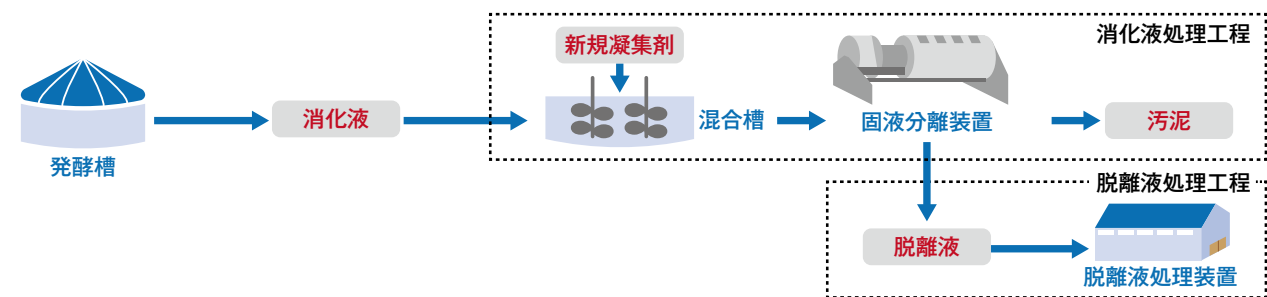


実証プラント



消化液凝集前後の様子

消化液処理工程のフロー



産業廃棄物からのレアメタル回収技術の改善

当社では、焼却灰中に含まれるレアメタルを回収し、高価値な工業用素材を製造する技術の開発を行っており、これまでに、低コストで複数の原材料から目的素材を製造する技術の開発などを行ってきました。

現在、レアメタル回収技術の様々な処理工程のうち、環境負荷の大きくなりやすい工程を別の方法に代替することで、消費エネルギーや副生する廃棄物量を大幅に低減できる回収技術の改善に取り組んでいます。



中間体の様子

RF燃料改質技術の開発



実証試験機の様子

RF 燃料の原料となる産業廃棄物の種類や性状は、社会環境の変化とともに大きく変化しています。そのため、RF 燃料の特徴であるチキソトロピー性が不足して成分分離しやすくなったり、RF 燃料の粘度が高くなったりすることがあります。当社では、2017 年度に実証試験機を試作して検証を行い、混合条件を工夫することによって、これらの課題に対して効果が得られることを確認しました。



リマテックグループへの事業支援

当社では安全・品質・環境面をはじめ、各社とあらゆる面で連携を密にすることにより、リマテックグループとしての技術力を向上させ、その技術力を最大限発揮するための努力を共に重ねています。安全としては、各社への様々な専門知識の提供や意見を調整する事務局の支援、安全活動を主とした工場パトロールを行い、第三者視点での気付きを労働環境改善として提供するなど、各社へのさらなる安全に対する意識向上のサポートを行っています。共同して取り組む安全衛生活動により、従業員の健康を維持し、安心して仕事に取り組めるよう、今後も安全衛生活動を推進し、事故や災害のない職場環境づくりに取り組んでまいります。



RTT株式会社



- 一般貨物運送事業
- 産業廃棄物の収集運搬業
- 海上運送事業
- タンク洗浄工事業
- 労働者派遣業



代表取締役 久永 勇

私たちは、社会的意義のある事業活動（CSV）を行うための道筋を「SDG s」と捉え取り組みを始めました。現在は「Step1 SDGsを理解する」段階にあり、経営方針、経営資源、お客様等との関係性を論議しています。今後、17のゴールに対しチャンスとリスク、将来のチャンスを選ぶリスクを評価し、2017年度に策定した3ヶ年経営計画の取り組みをベースに「私たちにしかできないこと」に主眼をおいて対応方法を決定し、戦略、戦術をもとに持続可能な世界を実現させるために貢献してまいります。また、本年4月にマネジメントシステム（ISO14001：2015 JICQA 7/12 認証）を、「過去を破壊し新しいものを創造」するため「私の魂を込めた経営管理のルールブック」として刷新いたしました。本年度の安全、環境、経営の取り組みを策定する際には、経営理念から連鎖した目的目標で、かつ取り組む理由、取り組まなかったときの

状態・リスクが明確になったことから、管理者は、自らの責任範囲で実行することを決定し、納得し、他のものに責任転換をしない決意で、日々の業務に邁進しています。

昨年、ステークホルダーから投げかけられた「育成」をテーマに、従業員の「本音」に対する管理者の「部下に対する想い」をご紹介します。

育成は、従業員一人ひとりの情報（技術の習熟度、危険に対する感覚、欲求段階など）を認識し、達成レベルに応じて成長する機会を与え、成果を正しく評価し、輝く場となる環境を整え、能力を発揮させることです。従業員の理想像（あるべき姿ではない）は「賃金よりも貢献を重んじて、自ら考え、決定し、行動する人」です。貢献は、欠乏欲求から成長欲求に「転換」することで生まれます。転換ポイントは「正しく認められたと感じたとき」と考えています。



育成は「欲求を転換させ、輝く場を創り、能力を発揮させる」こと

2018 TOPICS 1

【我々がやるの!】の精神でスキルアップ

外部からの刺激を与える

不安を取り除き、一つひとつの作業を安全に行う事で自信につながります。

安全に行うためには、独自の判断ではなく、より多くの情報を集め作業者に納得させて作業方法を習得させることです。

そのためには、外部・内部とのコミュニケーションを幅広く自分自身も現場に行き、不安となるリスクを取り除き作業者と共に安全第一を優先に行います。

今年の安全活動では、「実習体験型外部講習会（2泊3日）の参加」や、タンク車体製造会社の工場長による車体細部の講習、パートナー企業との運行管理者情報交換会など、外部から、すぐに現場で生かせるものを学び実行することで、新しい発見を見つけることを期待しています。



課長 吉田 孝



「外部の世界を見ることで、自覚し自信となり、自らが決め、行動し始めている」

自信 に対し、成果を正しく評価し「認められた」と気づかせ、承認欲求を醸成させる



岡村 末次

私は、外部の交通安全研修を3日間受講しました。当初、どのような研修なのか分からず不安と期待を持ちつつ当日を迎えました。今回の講習でいろいろな事を教えて頂きました。基本に戻る事の大切さや、基本姿勢での運転操作の重要性、夜間走行での危険な箇所などたくさんの事を学びました。一番、印象に残っているのが省燃費走行で実際の数値の増減、金額などが明示され解りやすく参考になりました。省燃費走行自体が難しいことではなく意識の問題だと思いきや実際に実行すべきだと感じました。初心の気持ちを忘れず、研修で学んだことを実践していきます。

2018 TOPICS 2

習得した毒物運送技術と心構えを引き継ぐ

添乗指導で的確に伝える

今回、私がケミカルローリー車及びフッ酸の取り扱い技術を習得し、他ドライバーへ指導するにあたり、特に伝えたかった事は絶対に薬傷事故を起こして欲しくないという事です。薬傷事故を起こせば職場の仲間や家族等悲しむ人がたくさんいます。特に本人が一番辛い目に遭います。そんな思いを絶対に欲しくない、その為に指導して頂いた通りに手順書を作成し、添乗指導で的確に伝えました。最終的にはドライバー全員がこの技術を習得しレベルの高い仕事を出来るようになりお客様の信頼を得てたくさんの仕事を頂けるようになりたいそんな気持ちで指導しました。現在大きな事故もなく続けられています。今後も薬傷事故0件を目指していきます。



北村 秀一



「業務経験が短いため、危険に対する感覚が低く、薬品知識に乏しい状態にもかかわらず、経験者と同様のレベルで教育を行ったことから、理解不足で恐怖感を抱いた」

不安 に対し、危険に対する感覚に応じた教育を行い、理解度をほかり本人が納得するまでは乗務させない



山中 研司朗

ケミカルローリー車で毒物（フッ酸）を扱う時について、体にかかった時は危ない液体と言う事は十分に聞いているので、作業時はフランジを触ったら直ぐに水でゴム手袋を流すようにしています。あと、積み込み時漏れが無いのか、しっかり確認しています。フランジを付ける時は、特に注意して作業を心掛けています。ただ、どこまで、危険な液体を取扱っているのかと言うのが、はっきり理解していないのが怖いと思っています。気持ちとしてバキューム車の作業の時と同じ気持ちで、当たり前の漏れが無いのか、そこをしっかりと確認して無駄に他の場所を触らないように心掛けています。あとは、ケミカルローリー車のポンプが故障しないか心配しています。



「技術力も危険に対する感覚も高い運転手だが、自分で決めたことでないことには、やらされ感が強い」

不満 に対し、意見を出す機会を増やし、個々の想いに対する会社の考えを示し、新たな気づきを生みさせる



城間 博己

ケミカルローリーで毒物（フッ酸）運ぶ仕事? 毒物（ケミカルローリー）を扱っている専門の会社があるのになぜにして、うちの会社が毒物を扱う仕事を（新しい仕事をやっていかなければいけないのはわかるが…）自分自身キレイごとを、そもそも言うつもりはない。まさかそんな毒物を扱う仕事をするとも思いませんでした。

ケミカルローリーの仕事自体だれひとりとして経験もないのに、なにか中途半端な見切り発車でしかないのじゃないのかと、どんな仕事でも危険を伴うことは承知しているがケミカルローリーでのリスクを伴う仕事は遠慮したいものです。



「自ら積極的に作業方法などの情報を収集し納得し、それを実行できるようになったことで自信をもてた」

自信 に対し、成果を正しく評価し「認められた」と気づかせ、承認欲求を醸成させる



草薙 正則

ケミカルローリーを取り扱う時の気持ちと心構えは、RTTのバキューム車を扱う時とそんなに気持ちは変わりません。どの車両に乗っても常に安全確認や指差呼称をして、車両事故や漏洩事故を未然に防げるようにしています。ただケミカルローリーを扱う時は、運ぶ液体が毒物のフッ酸。この仕事を始める時に事前にフッ酸とはどのような液体なのかの教育を受け、かなり危険な液体なんだとことがわかりました。一滴指にかかれば指を切断、ガスの匂いはかなりの刺激臭、初めは身に危険を感じました。しかしこの仕事をやっていくにつれフッ酸はまだ怖い気持ち（一生怖い）はありますが、自信にもなりました。

そしてこういう毒物を扱っていると、自然に自分を守るという心構えが生まれました。

「自分の仕事がお客様に与える影響、社内での立場を考えながら、自覚的に「ルール順守の呼びかけ・指導、5S活動の推進、快適な職場づくり（清掃など当たり前のことを全員で行う）など」を始めている成長する気持ちに満ち溢れている



転換 に対し、小さな権限と責任を与え、自尊心を高め、成長欲求（自発性・自立性）を増大させる道徳観の強さを発揮する輝く場は「安全リーダー」



福田 昭二

毒物に指定されているフッ酸を運搬、取り扱い事に初めは正直怖いと思う気持ちしかありませんでした。フッ酸=危険というイメージが強すぎた為です。でも会社からの運搬方法・取扱ひ方の勉強会などの指導を受け正確な知識を持って作業をすれば安全である事を知り、安全=（点検 + 確認 + 合図）を何よりも優先し、「安全追求に終わり無し」の気持ちを持って、日々、取り組んでいます。今後、更に技術の向上、知識を高めお客様に安心・安全を提供し、信頼されるドライバーを目指したいと思います。

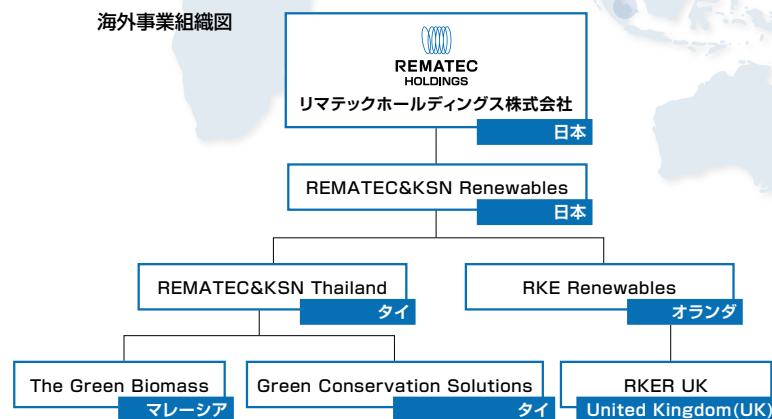
リマテックグループの海外事業

社会に革新をもたらす価値を創造し続け、
持続可能な社会の実現に貢献していきます。

近年、気候変動問題や資源・エネルギー問題、人口減少など、様々な社会課題が顕在化しています。そうした中 2015 年 9 月には、国連で「持続可能な開発目標（SDGs）」が採択されました。その目標達成に向けて企業の役割が期待されており、企業の積極的な行動がより重要になってきています。

リマテックグループは海外事業において、これまで培ってきたコア技術に経験とノウハウ、そして「企画力」「技術力」「現場力」を積極的に取り込み、社会課題の解決に寄与するソリューションビジネスを進めています。こうしたビジネスを図ることで、SDGs の達成に貢献するだけでなく、お客様の先に存在する、社会に生きる多くの人々の豊かな生活を実現することを目指しています。

社会課題のニーズをいち早くキャッチし、それを自社が得意とする事業やサービスに組み合わせて、新しい仕組みやサービスなどを創出していきます。



RKE Renewables

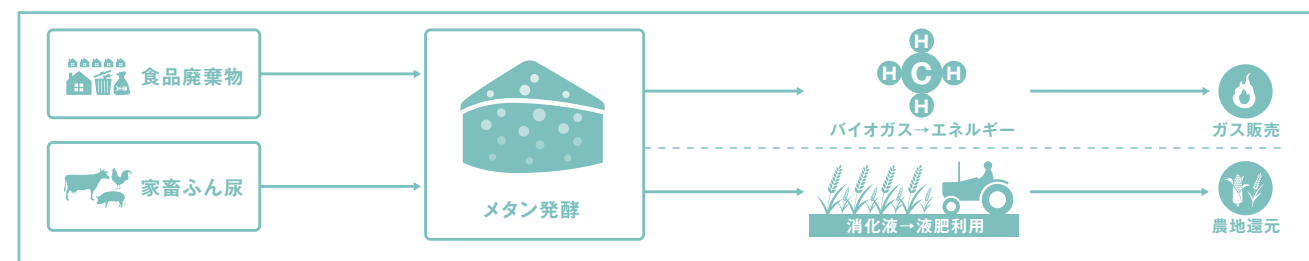
RKE Renewables ではロンドン近郊において、バイオガス化事業を開発しております。

再生可能エネルギーの一つであるバイオガスは、原料となる有機物を確保することでガスを安定的に得ることができ、太陽光発電や風力発電などと異なり、天候や時間に左右されず、24 時間 365 日にわたって稼働させることが可能です。

また、化石燃料を燃やしたときのように、大量に温室効果ガスを排出しないので、温暖化対策に効果的です。プラントを稼働させたときに

出る発酵槽内に残った消化液は、雑草種子や病原菌が含まれない安全な肥料（液肥）として二次利用も可能で、有機ゴミを無駄なく活用できるメリットもあります。このようなメタン発酵事業には、農業・食品関連事業と連携することによる経済の活性化効果も期待されています。

今後も循環型社会の構築に向けて一層の技術開発に取り組んでいきます。



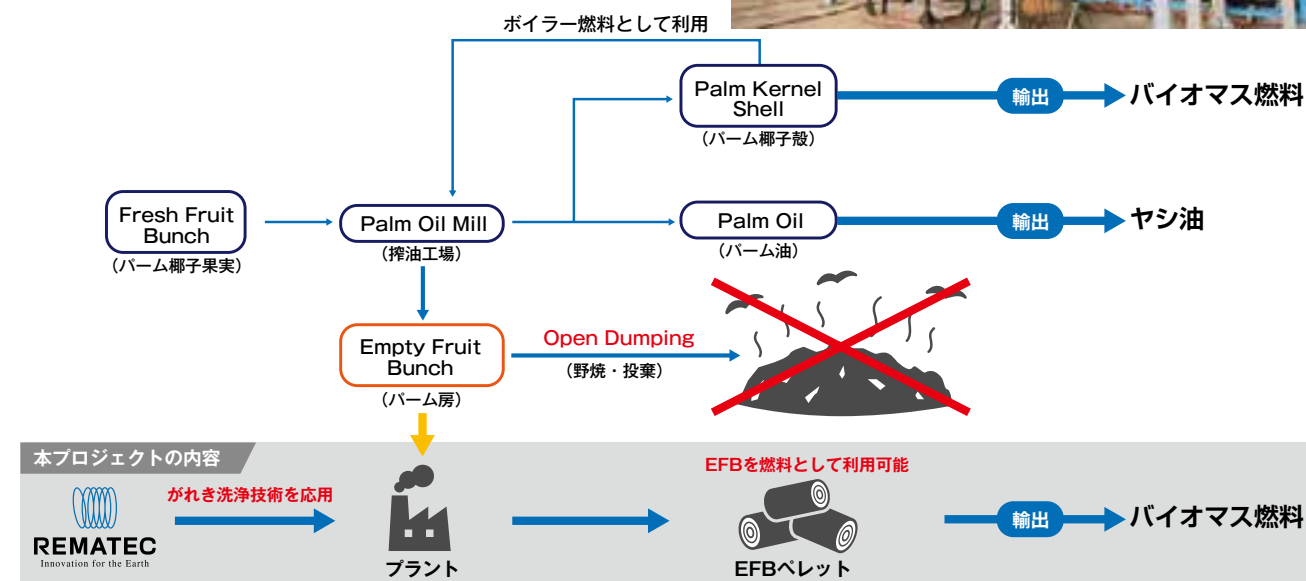
The Green Biomass

バイオマスを活用した、環境負荷低減の実現を目指す様々な取り組みが国内外で注目される中、当社はマレーシアにおいて、未利用バイオマス資源である EFB の有効活用を促進してきました。2018 年 11 月、太平洋セメント株式会社様と共同で進めてきた EFB（Empty Fruit Bunch）ペレットプロジェクトが、パイロット試験を終え今年、商用1号プラントが完成しました。

今後の環境問題の重要性を考えるとバイオマス燃料市場の拡大余地は大きいと判断しており、本事業を通じて新エネルギー関連ビジネスの拡大を進めてまいります。



The Green Biomass フロー図



Rematec & KSN Renewables

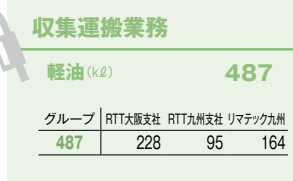
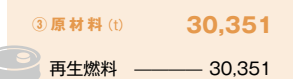
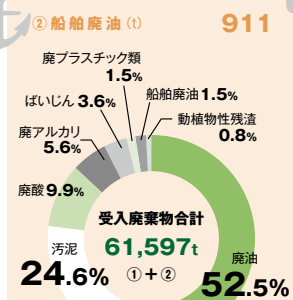
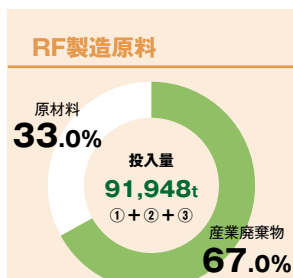
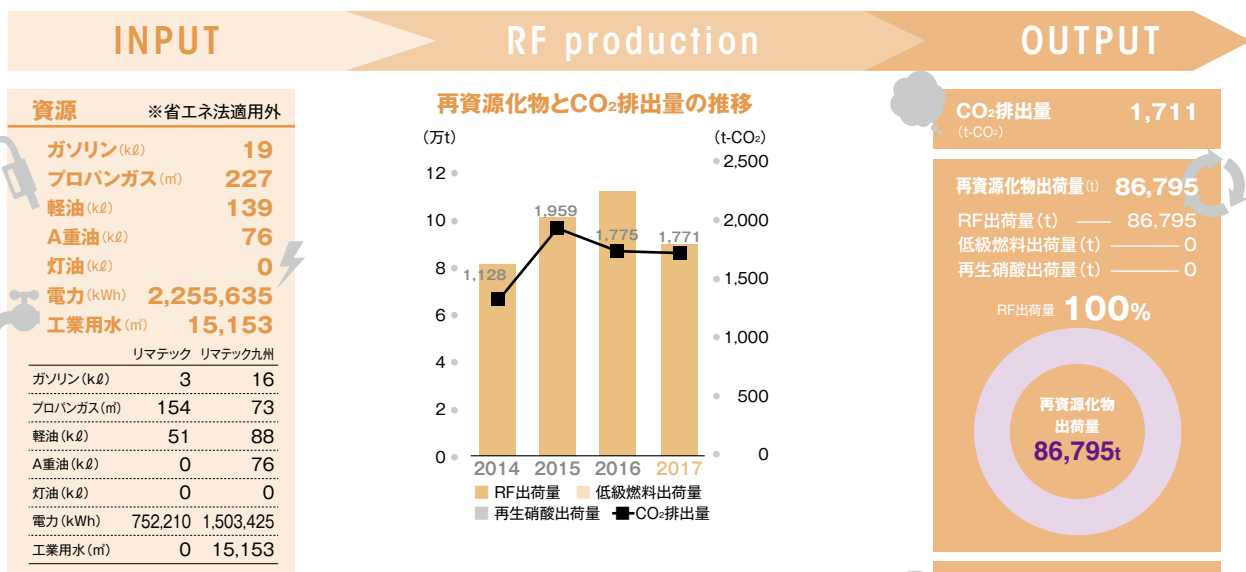
2018 年 9 月 17 ～ 20 日の 4 日間、東京ビックサイト（東京国際展示場）において、日本初開催となる第 11 回国際水協会（IWA）世界会議・展示会が開催され、世界 100 か国 6,000 人が来場しました。

展示ブースでは、世界で初めて 2 パールまでの圧力で完全に洗浄可能なフラットシート膜「IPC® 膜」を Blue Foot Membranes（ベルギー）と共同で発表しました。Blue Foot Membranes は、独創的で世界的に特許を取得した Integrated Permeate Channel（IPC™）技術の製造および販売を行う新興企業であり、当社は IPC 技術の製造及び販売のサポートを行い、日本とタイで販売しています。また、展示会場に別途用意されたビジネス・フォーラムのブースにおいて、出展者による各種プレゼンテーションが行われ、Blue Foot Membranes は IWA-IsleEmerging Technology Award を受賞しました。

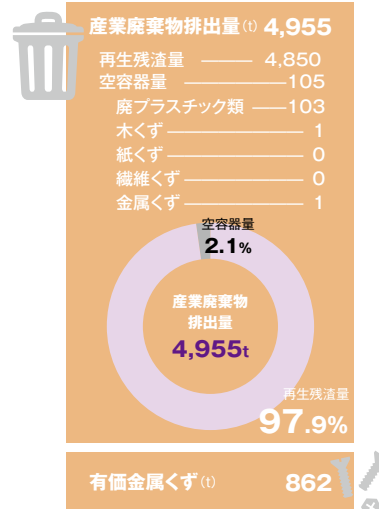
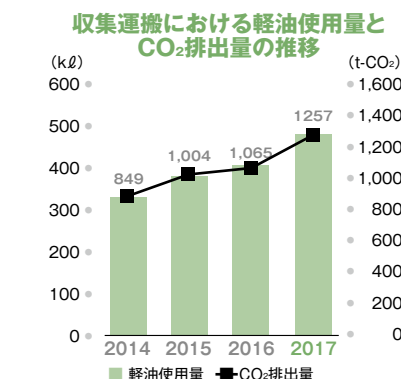
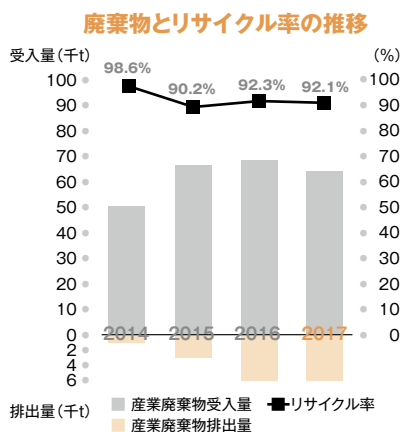


RF事業における環境パフォーマンスデータ

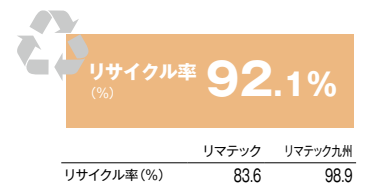
対象／リマテック株式会社、リマテック九州株式会社、RTT株式会社 集計期間／2017年4月～2018年3月



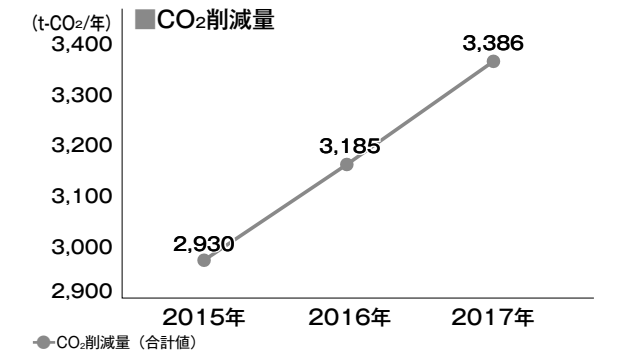
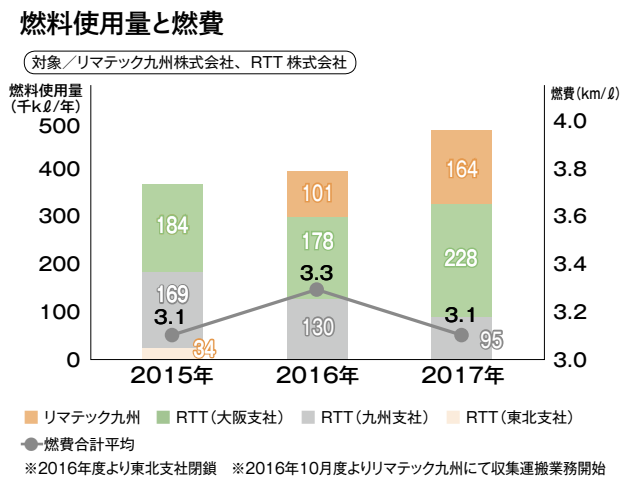
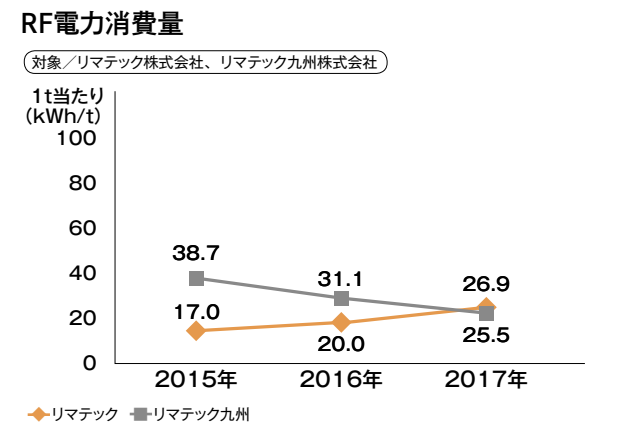
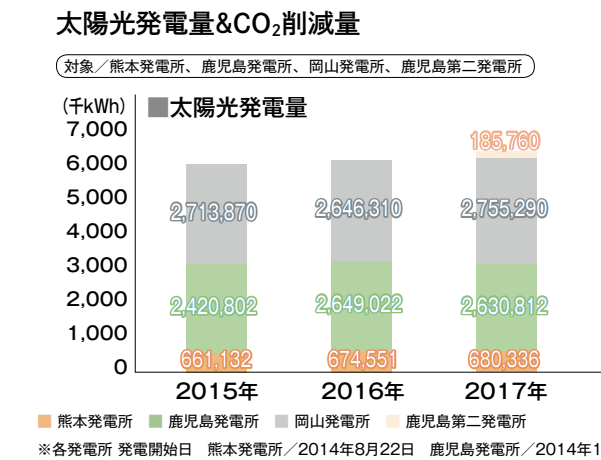
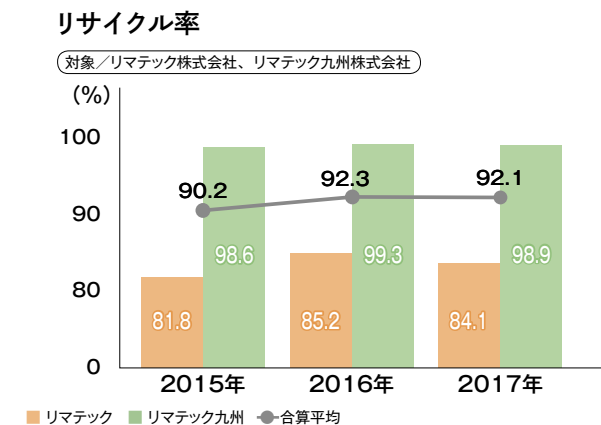
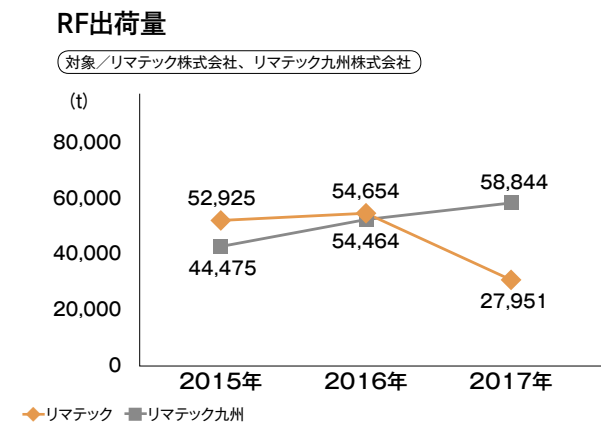
内訳	リマテック	リマテック九州
①産業廃棄物 (t)	27,264	33,422
廃油	17,868	14,482
汚泥	3,002	12,154
廃酸	3,513	2,598
廃アルカリ	1,916	1,523
ばいじん	72	2,156
廃プラスチック類	893	8
動植物性残渣	0	471
もえがら	0	30
金属くず	0	0
②船舶廃油 (t)	0	911
③原材料 (t)	7,913	22,438
再生燃料	7,913	22,438



内訳	リマテック	リマテック九州
CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	523	1,188
再資源化物出荷量 (t)	27,951	58,844
RF出荷量	27,951	58,844
低級燃料出荷量	0	0
産業廃棄物排出量 (t)	4,480	475
再生残渣量	4,472	378
空容器量	8	97
廃プラスチック類	7	96
金属くず	0	1
木くず	1	0
紙くず	0	0
がれき類	0	0
繊維くず	0	0
ガラスくず	0	0
有価金属くず (t)	475	387



2015-2017年度リマテックグループデータ実績



エコファーストの約束



私たちリマテックグループは、産業廃棄物のリサイクルを行う企業としての社会的責任を踏まえ、法順守を徹底するとともに、環境負荷を継続的に改善する活動を通じ積極的に社会貢献するため、以下の取り組みを進めています。

2017年度エコファーストの実績

約束内容	項目	目標	2017年度実績
1 循環型社会形成の推進	産業廃棄物のリサイクル率	97%を維持	92.1%
	再生燃料化できる産業廃棄物を増やすための研究	—	廃棄物再資源化に関する研究開発活動の実施
2 地球温暖化防止の推進	再生燃料 (RF燃料) 出荷量	2019年度まで現状より5%アップ	86,795t
3 廃棄物の有効活用	バイオマスを利用したエネルギー回収技術の開発に向けた取り組み	—	食品系廃棄物等を活用したバイオガス発電実施
4 環境教育の実施	独自の環境教育の実施	—	当社独自の社内環境教育を実施
	工場見学を定期的に企画・実施	—	各社工場・プラントにて国内外から見学者対応を実施

■2017年度実績(重点取組を一部抜粋)

リマテック

環境管理活動	社会的課題との適合性	目的・目標	実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
	再資源化における天然資源の枯渇抑制	出荷目標 RF燃料：55,000t/年	RF燃料を安定出荷することで天然資源の枯渇抑制	RF燃料：27,951t/年	×
	再資源化における天然資源の枯渇抑制	メタン発酵発電量：1,120,650kWh/年	MFP施設メタン発酵における発電の効率化	メタン発酵発電量：912,535kWh/年	×
	電力削減	RF燃料1t生産に当たり、電力消費量：18.5kWh以下 ■夜間使用電力の閑欠運転 ■必要のない設備の停止 ■デマンドコントロールの運用方法の見直し	電力消費量：26.9kWh/t	×	
	法規制遵守（悪臭防止法）	臭気測定 敷地境界線（臭気指数10未満・排気口38以下）	臭気測定：2回/年（4月、10月実施）	測定実施：基準値内	
安全衛生活動	項目	目的・目標	具体的な実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
	安全・衛生	■OHSAS18001登録認証 ■強度率：0.0025%	■統合審査認証登録 ■労働災害発生状況 強度率：0.0025%	■統合審査認証登録済（9月15日） ■労働災害発生状況 強度率：0%	○
	防災	地震発生による火災想定、避難訓練	■防災訓練の実施：1回/年 ■緊急時対応手順の確認	1回/年実施（3月26日）	○

リマテック九州

	社会的課題との適合性	目的・目標	実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
環境 管理 活動	共存共栄	騒音クレーム：0件	■発生源の追及と改善 ■定期的な環境ハットロールによるチェック ■夜間作業時の相互注意	0件	○
	電力削減	RF燃料1t生産に当たり、電力消費量：33.0kWh/t以下	■工場内の電力使用状況の見直し ■製品タンク・貯蔵タンクの間欠運転	25.5kWh/t	○
	水質・土壌汚染防止	汚れた雨水の排出防止：0件 (pH:5.8以上～8.6以下 透視度:500mm以上)	■雨水処理設備の定期的なメンテナンス ■放流水（雨水）の日々の監視 ■3者（近隣住民・行政・当社）立ち会いのサンプリングから水質検査	0件（pH:5.8以上～8.6以下 透視度:500mm以上）（第三者 機関の水質検査:水質基準クリア）	○
		漏洩事故：0件	■場内点検 ■収集運搬時の積載及び運搬途中の確認 ■定期的な車両整備	0件	○
	再資源化による天然資源の枯渇抑制	RF安定生産達成：46,000t/年	■処理計画に基づく計画的な生産 ■定期的な現場/ハットロール ■安全教育 ■処理設備の定期的なメンテナンス	58,844t/年	○
安全 衛生 活動	項目	目的・目標	具体的な実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
	安全	事故・災害：0件	■リスクアセスメントの実施 ■定期的な現場/ハットロールの実施 ■定期的な安全教育の実施 ■リスク排除に向けた設備改善	0件	○
	衛生	健康個人目標の達成：85%以上	■健康個人目標達成状況の進捗管理 ■産業医・保健師による面談及び指導 ■ストレスチェックの実施	94%	○
	防災	異常反応時の防災訓練：1回/年	■火災事故発生時の緊急時対応訓練実施 ■安否確認メール配信システムの運用	1回/年 実施	○
	交通	交通事故：0件	■課内での事故事例検討 ■法定速度順守及び車両距離確保の指導・励行 ■年4回大分県合同交通安全運動に参加（期間中、街頭指導8回実施）	1件	×

RTT

環境管理活動 安全衛生活動	社会的課題との適合性		目的・目標	実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
	地球温暖化の防止（燃料使用量の削減）	燃料使用量の削減	目標：燃費 3.50km/l	添乗指導により、ムリ・ムダ・ムラムボウを自覚・納得させ、排除する	3.11km/l	×
	項目	目的・目標		具体的な実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
	交通	人身事故：0件		添乗指導により、基本動作を確認し、自覚・納得させ自信を持たせる	0件	○

リマテックR&D

環境 管理 活動	社会的課題との適合性	目的・目標	実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
	電力削減	前年実績より5%削減(年間平均11,138kWh以下)	■未使用場所(室内)の消灯徹底 ■使用電力確認 前年実績より5%削減(年間平均11,138kWh以下)	前年実績より5%削減 (年間平均:9,687kWh)	○
	資源循環への貢献	バイオマス利用エネルギー回収事業の事業化 (タイ王国)都市ごみ燃料化実証試験プラント設計		タイ王国側の制度変更に伴い 実証事業中止	×
安全 衛生 活動	項目	目的・目標	具体的な実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
	安全	事故・災害:0件	■KY活動・定期パトロールの実施 ■法令・規程の順守 ■リスクアセスメント実施およびハザードマップの作成・更新と周知 ■緊急事態への対応訓練 ■教育と力量評価	2件 ■自転車通勤時接触事故:1件 ■重傷物損事故:1件	×
	衛生	■ストレスチェック実施:1回/年 ■健康診断受診:100%	■ストレスチェック及びフォロー実施 ■健康診断の受診 ■個人ごとでの衛生目標の立案・実施	■ストレスチェック実施:1回/年 ■健康診断受診:100%	○

リマテック東北

環境 管理 活動	社会的課題との適合性	目的・目標	実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
	地域環境保全活動	工場周辺清掃活動の実施	工場周辺道路や河川堤防等でのゴミ拾い	一斉清掃実施（県道沿い清掃） 月1回の一斉清掃実施（河川沿い・構内）	○
		周辺環境に配慮した作業実施	■発塵防止 ■騒音振動の抑制 ■白濁水の河川流出防止 ■重機での燃料使用量削減	■クレーム：0件 ■騒音測定：2回/月実施 ■各重機の燃料使用データは、作業内容が異なるためデータ収集中	○
	セメント再資源化への貢献	請負業務の全量適正前処理：受入拒否0件	当社設備トラブルの防止・対応	0件	○
安全 衛生 活動	項目	目的・目標	具体的な実施事項の計画	目的・目標に対する結果	評価
	安全	不休・休業災害：0件継続	■始業前KY完全実施 ■始業前や休憩後に指差し唱和 ■相互注意の積極実施 ■指差し呼称の完全徹底 ■ヒヤリハット抽出 ■リスクアセスメント確実に実施	0件	○
		重機車両による物損事故：0件	■安全保護具の着用徹底 ■外部教育の受講 ■重機スキルアップ実施 ■作業標準書の見直し ■日々の「トロール」にてルール順守確認	2件	×
	衛生	■個人健康目標達成率：85% ■健康診断受診率：100%	■個人健康管理目標を設定し、生活習慣病等を抑制 ■健康診断の全所有見者に再検査要請	■個人健康目標達成：97.5% ■健康診断受診：100%	○
	防災	火災や油漏洩、地震津波への準備と対応教育、訓練の実施	■火災・油漏洩・地震津波を想定した総合予防訓練を実施 ■油漏洩処置道具や消火器、可搬式点検・対応教育を実施	■油漏洩処置道具点検：1回/月 ■可搬式消防ポンプ可動点検：1回/月 ■火災予防、油漏洩処置、地震津波訓練等：4回/年	○

■3ヵ年目標《2018-2020年度》(重点取組を一部抜粋)

リマテック

環境管理活動	項目	目標値			実施項目の計画		
		2018年度	2019年度	2020年度	2018年度	2019年度	2020年度
	RF燃料の安定操業	54,000t	54,500t	55,000t	■RF燃料の最適な配合率を確立し安定化を図る ■リスクアセスメントの実施を行い、計画的に設備改善を図る		
	法規制順守(悪臭防止法) 臭気指数:敷地境界線・臭気指数10未満	臭気指数10未満	臭気指数10未満	臭気指数10未満	■作業時シャッター運用方法の徹底 ■日々パトロールにてチェック		
	RF燃料1tあたりの電力消費量	18.5kWh	18.4kWh	18.3kWh	■既存機器の停止以外にも新たに停止できる機器の検討(2019年度) ■デマントコントロールシステムの見直し(2020年度)		
安全衛生活動	項目	目標値			実施項目の計画		
		2018年度	2019年度	2020年度	2018年度	2019年度	2020年度
	安全	強度率:0%	強度率:0%	強度率:0%	■リスクアセスメント活動中からポイントの高い部分を優先に改善を実施 ■毎月経営者パトロールを実施		
	衛生	健康管理目標達成:85%	健康管理目標達成:90%	健康管理目標達成:90%	■健康診断の結果の悪い社員を中心に産業医の指導のもと、個人健康管理目標の設定数値見直し(生活習慣病改善を図る)		
	防災訓練 (地震発生から火災想定)	火災想定、避難訓練1回/年	火災想定、避難訓練1回/年	火災想定、避難訓練1回/年	■地震発生→火災発生→初期消火活動→避難場所までの避難(南海トラフ巨大地震発生想定)		

リマテック九州

環境管理活動	項目	目標値			実施項目の計画		
		2018年度	2019年度	2020年度	2018年度	2019年度	2020年度
	電力 (RF燃料1tあたりの電力消費量)	25.4kWh/t	25.3kWh/t	25.2kWh/t	■月々のRF生産量に見合う電力消費量実現に向けた検討 ■タンク攪拌機の間欠運転等による電力削減 ■低電力消費設備への変更検討		
	安定操業の推進 (RF生産目標の達成)	54,000t/年	55,000t/年	56,000t/年	■ABC運動(あたり前のことを、ぼんやりせず、しっかり行う)の徹底 ■定期的な設備点検及び改善活動による生産設備のフル操業 ■タンク内性状(pH・圧力・温度等)の徹底監視による異常反応の抑止		
放流水の水質	pH:5.8以上～8.6以下、透視度:500mm以上				■雨水処理設備の定期的なメンテナンスによる機能の維持 ■放流水(雨水)の日々の徹底監視 ■3者(近隣住民・行政・当社)立ち合いのサンプリングから水質検査		
安全衛生活動	項目	目標値			実施項目の計画		
		2018年度	2019年度	2020年度	2018年度	2019年度	2020年度
	安全	事故災害:0件			■管理者層による定期的な3現(現場・現物・現実)/ハトール ■ABC運動(あたり前のことを、ぼんやりせず、しっかり行う)の徹底 ■事故・災害リメンバールンダーを作成し、類似事故防止に努める ■過去の事故災害の原因と教訓の継承教育 ■安全行動個人宣言文の作成と実施 ■部門別行動目標の作成と実施 ■業務用車両運転時の危険個所を記載したハザードマップの作成及び周知 ■RF生産ライン等の設備自動化の模索		

RTT

環境管理活動 ・安全活動	項目	目標値			実施項目の計画		
		2018年度	2019年度	2020年度	2018年度	2019年度	2020年度
	地球温暖化の防止（燃料使用量の削減）	燃費：3.60km/l			■添乗指導により、ムリ・ムダ・ムラ・ムボクを自覚・納得させ、排除する （運転経験の少ない新人の採用及び車両の老朽化により目標は現状維持とする）		
	項目	2018年度	2019年度	2020年度	実施項目の計画		
	交通	人身事故：0件			2018年度	2019年度	2020年度
					添乗指導により、基本動作を確認し、自覚・納得させ自信を持たせる		

リマテックR&D

環境 管理 活動	項目	目標値			実施項目の計画		
		2018年度	2019年度	2020年度	2018年度	2019年度	2020年度
	電力削減	前年実績より3%削減 (年間平均9,396kWh以下)	前年実績より2%削減	前年度実績維持	■実証事業プラント設計・建設 ■実証試験によるデータ取得		
	資源循環への貢献	廃棄物からのレアメタル回収事業の事業化					
		実証事業プラント設計	実証事業プラント建設	実証試験によるデータ取得			
安全 衛生 活動	項目	目標値			実施項目の計画		
		2018年度	2019年度	2020年度	2018年度	2019年度	2020年度
	安全	事故災害：0件			■KY活動・定期パトロールの実施 ■法令・規程の順守 ■リスクアセスメント実施およびハザードマップの作成・更新と周知 ■緊急事態への対応訓練 ■教育と力量評価		
	衛生	■ストレスチェック実施：1回/年 ■健康診断受診：100% ■個人衛生目標達成：80%			■ストレスチェック及びフォローの実施 ■健康診断の受診 ■個人ごとでの衛生目標の立案・実施		

リマテック東北

環境管理活動	項目	目標値			実施項目の計画		
		2018年度	2019年度	2020年度	2018年度	2019年度	2020年度
	共存共栄	濁水の河川流出や騒音等の苦情：0件			■雨天後の河川流出水の定期確認・対策実施 ■緊急事態への対応訓練 ■発塵防止、騒音振動の抑制		
	化石燃料使用の削減	重機での燃料使用量の削減：可燃系リサイクル使用重機での燃料使用量の削減：減：前年比5%削減；対比基準値1.28ℓ/t 削減率2%			■重機での燃料使用量削減策の検討・実施		
	資源循環への貢献 (経営課題/顧客ニーズから)	復興事業から出る廃棄物の全量適正前処理：受入拒否 0件			■復興事業からの廃棄物受入拒否：0件 ■搬入された前処理物の確実な処理実施 ■セメント工場での再資源化への貢献 新処理方法の提案等		
地域環境保全・地域貢献	工場周辺美化活動への参加：2回/年以上			■工場周辺道路の美化活動（ゴミ拾い）参加 ■河川堤防沿いの美化活動			
安全衛生活動	項目	目標値			実施項目の計画		
		2018年度	2019年度	2020年度	2018年度	2019年度	2020年度
	安全	度数率・強度率・千人率：0%継続			■ヒューマンエラー対策の実施 ■KY活動、ルール順守確認（管理職・パトロール） ■設備、動線変更での安全対策・改善提案の実施等		
	衛生	個人衛生目標の達成：85%以上継続維持			■個人毎の衛生目標の立案・実施 ■健康診断の受診		
	交通	重機作業での物損事故：0件			■始業前KYの確実な実施 ■指差呼称の定着化 ■専門教育の受講 ■基本的事項の再徹底		



NPO法人環境文明21共同代表
藤村 コノエ 氏

これまでもリマテックの報告書を拝見してきましたが、今回の報告書を見ると、4年前に実施された分社化が、当初の若干の戸惑いを脱して、田中社長が本来企図していた路線に少しずつ適合してきたように感じられます。

田中社長はここ数年、国内での経験・実績を踏まえ、タイ・マレーシアなど東南アジアから英国・オランダなど EU 諸国にまで活動範囲を広げ、現地パートナーと共に、資源循環、特に最先端のバイオマスエネルギー関連ビジネスも手掛けています。そうしたこともあり、社長ご自身はパリ協定や SDGs にも精通していますが、一方で、グループ会社の役員・社員の皆さんは、こうした国際的な潮流を確実に理解し、個々の事業活動に反映できているだろうかという懸念を抱いていました。

しかし、巻頭の社長メッセージには、「パリ協定、SDGs など世界的な動きを、自分たちの事業活動に具体的につなげ一歩踏み出すことが重要と考え様々な取り組みを実施している」旨書かれています。そして、社員自らが世界の状況や変化を考えつつ具体的活動をする事の重要性を本質的に学べるような SDGs 研修や、「2030 年までの温室効果ガス削減目標を設定しグループ会社毎に具体的で実現可能な施策を立て、継続的に削減していく」ことを表明するなど、社長自らが世界と現場

を繋ぐことの大切さを認識し、具体的事業に大きな期待を寄せていることが伺えます。

一方各社でも、その方向に向け第一歩を踏み出そうとしていることが伺えます。例えば、各社の取り組みページには各々の事業活動が SDGs の 17 目標のどれと関連するかを示されています。またパリ協定に関連した内容が各社の取り組みから読み取れ、気候変動や脱炭素への取り組みが定着しつつあるようです。以前から指摘していたグループ会社全体での CO₂ 排出量に関しては、新たに GHG プロトコルに準拠した算定を始め、削減目標も SBT 目標水準とあわせた設定がされています。

ただ、SDGs に関しては、具体的事業と絡めての検討が始められている会社もありますが、全体としては、各社のどんな事業とその目標が具体的につながるのかが理解しにくい面もあります。最近日本企業の多くが SDGs への取り組みを表明していますが、単なる掛け声だけのものも見受けられます。今後リマテックグループとしてそれを本物にしていくには、各社でその目標と事業とのつながりを見極め、日々の事業で実績を積み重ねていくことが大切です。また、パリ協定に関しても、新たな算定や目標設置自体はこの業界では先進的で素晴らしいものですが、削減目標値がやや低いこと、それに至る具体的方策が示されていないことは気になる点です。今後は、スコープ3も入れ、達成に向けた具体的方策を描き、削減目標値も徐々に上げながら、グループ全体の取り組みをより本格化してほしいものです。

最後に、「来るべき大転換時代のリスクとチャンス事前に評価し、それらへの準備を一歩一歩進めながら、「見たことのない世界」を作ることに挑戦していく」との田中社長の決意と覚悟を、グループ各社の皆さんが理解・共有し、既存の技術力もより高めながら確実に実行していくこと、そして実業を通じて、社会や将来世代に貢献していくことを期待します。

したパリ協定に関する削減目標や、その具体的な方策についてはグループ会社連携のもと、早急に具体策と目標を定め、その実行に努めていきます。今後も、環境事業を通して地道にそして愚直に全社員がベクトルを合せ、一丸となってゴールを目指していこうと決意を新たにいたしました。

今後、地球規模の環境課題解決に向け、「井の中の蛙」にならないように課題変化を踏まえ、身近な環境側面のみでなく世界規模での経済・社会の変化も網羅しながら、具体的な事業活動に結び付けていきたいと考えています。

そして、ホールディングスのビジョンに一歩でも近づけるよう、グループ全社が一丸となって、諸課題の解決に向け困難を乗り越え挑戦し続けていく所存です。

今後とも、当社グループは CSR レポートを通じ、事業内容だけでなく環境の改善や環境課題の解決、社会貢献拡大に向けた取り組みなど、活動について分かりやすく公開し、全てのステークホルダーの皆様の期待に応えられるように努めてまいります。



第三者意見を 受けて

リマテック九州株式会社
取締役業務部長
安永 和彦

藤村様には、CSR レポート発刊にあたり毎年大変貴重なご意見を賜り、誠に有り難うございます。

2018 年は、リマテックグループ各社において、パリ協定や SDGs に関連する活動の元年にあたる年であり、動き始めた世界的潮流に、我々の事業がどのようにして関わり合っていくのかを皆で考え、理解に努めた年でありました。

弊社グループの共通の経営理念として「技術をコアに、限りある資源を無駄なく効率的に循環させ、持続可能な社会の構築に貢献する」があります。この理念は、概念的にはパリ協定や SDGs の活動に相通じるものがあります。ご指摘を頂きま



リマテックホールディングス株式会社

本 社

〒596-0015 大阪府岸和田市地藏浜町11-1
tel.072-438-4146 fax.072-422-3809

<http://www.rematec.co.jp>



リマテック株式会社

本社／大阪工場

〒596-0015 大阪府岸和田市地藏浜町11-1
tel.072-438-6434(代表) fax.072-422-3617

堺SC工場

〒592-8331 大阪府堺市西区築港新町4丁2-4
tel.072-280-0525 fax.072-280-0526

藤原事業所

〒511-0515 三重県いなべ市藤原町大字東禅寺1361-1
太平洋セメント株式会社 藤原工場内
tel.0594-46-4544 fax.0594-46-4544

南港事業所

〒559-0032 大阪府大阪市住之江区南港南7丁目
関西電力株式会社 南港発電所内
tel.06-6613-7761 fax.06-6613-7761

メタン発酵
施設

〒596-0013 大阪府岸和田市臨海町16-1
岸和田フィッシュミール株式会社構内
tel.072-432-8004 fax.072-432-8004

<http://www.rematec.co.jp/rematec/>



リマテック九州株式会社

本社／九州工場

〒875-0211 大分県臼杵市野津町大字都原906
tel.0974-32-7721 fax.0974-32-7731

津久見事業所

〒879-2471 大分県津久見市合ノ元町2-1
太平洋セメント株式会社 大分工場津久見プラント内
tel.0972-82-9055 fax.0972-82-7025

<http://rematec-kyushu.com/>



リマテック東北株式会社

本 社

〒022-0007 岩手県大船渡市赤崎町字亀井田2-3
tel.0192-47-3526 fax.0192-47-3527

花巻ラボ

〒025-0312 岩手県花巻市二枚橋5地割6番地3 B-7
tel.0198-41-3033 fax.019-903-0306

<http://www.rematectohoku.com>



リマテックR&D株式会社

本 社

〒592-8331 大阪府堺市西区築港新町4丁2-4
tel.072-280-0525 fax.072-280-0526

<http://www.rematec.co.jp/rd/>



RTT株式会社

本 社

〒592-8331 大阪府堺市西区築港新町4丁2-4
tel.072-280-0672 fax.072-280-0673

大阪支社

〒596-0015 大阪府岸和田市地藏浜町11-1
tel.072-433-7880 fax.072-433-7881

九州支社

〒875-0201 大分県臼杵市野津町大字野津市648-1
tel.0974-32-7820 fax.0974-32-7821

<http://www.rtt-rematec.co.jp>



株式会社レックス

本 社

〒542-0081 大阪府大阪市中央区南船場1-3-9
プレミアム長堀ビル6階
tel.06-6210-2327 fax.06-6210-2328

<http://re-cs.co.jp>

編集方針

リマテックグループでは、CSR 活動について、全てのステークホルダーの皆様にご報告することを目的に情報を開示しています。この度、発行しました 2018 年度の CSR レポートは、リマテック九州株式会社が主幹事務局となり、取りまとめを行いました。2018 年度版 CSR レポートの作成コンセプトは「変化」です。2017 年度は国内外問わず、大きな変化が起こった年でありました。労働安全衛生マネジメントシステムの ISO 化や、異常気象による自然災害後の復旧など、多くの分野で変化対応を求められる年となりました。そのような大きな変化に、グループ

全体一丸となり取り組んだ結果を、総括したく編集を進めてきました。また、今回の CSR レポートの構成は、近年、グループ全体で取り組んでいる「SDG s」を主体とした構成としており、本紙後半の各社ごとのページには、SDGs17 の目標の中から各社の活動と強く関連した内容を掲載しています。ご高覧のうえ、当社グループの CSR 活動をご理解いただければ幸いです。そして、是非、ご一読いただいた際には、忌憚のないご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

■報告対象組織／リマテックグループ
■報告書発行日／2018年11月30日
■情報開示体系／このレポートは、リマテックグループの CSR 活動とその取り組みを報告しています。また、ホームページでは各社の事業紹介や日々の活動を更新していますので、ぜひご覧ください。
<http://www.rematec.co.jp>

■参考ガイドライン／GRI「サステナビリティレポーティングガイドライン」、環境省「環境報告ガイドライン2012年版」、「地球温暖化対策地域推進計画策定ガイドライン」

本報告書に関するお問い合わせ先
リマテック九州株式会社
〒875-0211 大分県臼杵市野津町大字都原906 tel.0974-32-7721